

Quest® NetVault® Backup  
Plug-in for *SharePoint* 12.1

ユーザーズ・ガイド



© 2018 日本クエスト・ソフトウェア株式会社

ALL RIGHTS RESERVED.

本書には、著作権によって保護されている機密情報が記載されています。本書に記載されているソフトウェアは、ソフトウェア・ライセンスまたは機密保持契約に基づいて提供されます。本ソフトウェアは、当該契約の条項に準拠している場合限り、使用または複製することができます。本書のいかなる部分も日本クエスト・ソフトウェア株式会社の書面による許可なしに、購入者の個人的な使用以外の目的で、複写や記録などの電子的または機械的ないかなる形式や手段によっても複製または転送することはできません。

本書には、Quest Software 製品に関連する情報が記載されています。明示的、黙示的、または禁反言などを問わず、本書または Quest Software 製品の販売に関連して、いかなる知的所有権のライセンスも付与されません。本製品の使用許諾契約の契約条件に規定されている場合を除き、QUEST SOFTWARE はいかなる責任も負わず、製品に関連する明示的、黙示的または法律上の保証（商品性、特定の目的に対する適合性、権利を侵害しないことに関する黙示的保証を含む）を否認します。QUEST SOFTWARE は、損害が生じる可能性について報告を受けたとしても、本ドキュメントの使用、または使用できないことから生じるいかなる、直接的、間接的、必然的、懲罰的、特有または偶発的な障害（無期限、利益の損失、事業中断、情報の損失も含む）に対しても責任を負わないものとします。Quest Software は、本書の内容の正確性または完全性について、いかなる表明または保証も行わず、通知なしにいつでも仕様および製品説明を変更する権利を有します。Quest Software は、本書の情報を更新する一切の義務を負いません。

本文書の使用に関してご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

日本クエスト・ソフトウェア株式会社  
宛先：法律部門  
東京都新宿区西新宿 6-10-1  
日土地西新宿ビル 13F

日本国内および海外の事業所の情報に関しては、弊社の Web サイト (<https://www.quest.com/jp-ja>) を参照してください。

#### 特許

高度なテクノロジーは Quest Software の誇りです。特許および出願中の特許がこの製品に適用される可能性があります。この製品に適用される特許に関する最新情報については、<https://www.quest.com/jp-ja/legal> の弊社 Web サイトを参照してください。

#### 商標

Quest、Quest ロゴ、Join the Innovation、および NetVault は、日本クエスト・ソフトウェア株式会社の商標および登録商標です。Quest の商標の詳細な一覧については、<https://www.quest.com/jp-ja/legal/trademark-information.aspx> を参照してください。その他すべての商標および登録商標は各社に帰属します。

#### 凡例

- **警告**：警告アイコンは、潜在的な資産の損害、個人の負傷または死亡の可能性を表しています。
- ! **注意**：注意アイコンは、指示に従わなかった場合に、ハードウェアの損傷やデータの損失につながる可能性があることを表しています。
- i **重要、メモ、ヒント、モバイル**、または**ビデオ**：情報アイコンは、サポート情報を表しています。

NetVault Backup Plug-in for SharePoint ユーザーズ・ガイド  
更新 - 9 2 0 1 8  
ソフトウェア・バージョン - 12.1  
MSS-101-12.1-JA-01

# 目次

<b>NetVault Backup Plug-in for SharePoint – はじめに</b> .....	<b>5</b>
NetVault Backup Plug-in for SharePoint : 概要 .....	5
主な利点 .....	5
機能概要 .....	6
対象ユーザー .....	6
参考資料 .....	7
<b>プラグインの構成、インストールおよび削除</b> .....	<b>8</b>
プラグイン・システム構築 .....	8
単一サーバーへの導入 .....	10
小規模ファームへの導入 .....	11
スケールアウトされたファームへの導入 .....	12
SharePoint 2013以降に対する「SP_DATA_ACCESS」ロールの割り当て .....	13
プラグインのインストールまたはアップグレード .....	14
プラグインの削除 .....	14
<b>プラグインの設定</b> .....	<b>15</b>
デフォルト設定の構成 .....	15
<b>データのバックアップ</b> .....	<b>18</b>
バックアップおよびリカバリ戦略の定義 .....	18
利用可能なバックアップ方法 .....	18
タイプの確認 .....	19
バックアップ・シーケンス例 .....	20
バックアップの実行 .....	21
バックアップ対象データの選択 .....	21
バックアップ・オプションの設定 .....	22
ジョブのファイナライズと実行 .....	24
<b>データのリストア</b> .....	<b>25</b>
SharePointのリストア・プロセスについて .....	25
使用可能なリストアのタイプについて .....	26
SharePointにおけるバックアップのリストア .....	26
前提条件の検証 .....	26
リストア対象データの選択 .....	27
リストア・オプションの設定 .....	28
ジョブのファイナライズと実行 .....	29
サービスの再起動 .....	30
単一のフル・バックアップ、フル+差分のシーケンス、 または個別のサイト・コレクションのバックアップのリストア .....	30
単一のファームのフル・バックアップのリストア .....	30

ファームのフル+差分バックアップ・シーケンスのリストア .....	31
個別のサイト・コレクション・バックアップのリストア .....	32
その他のリストア手順 .....	32
一般的なタスク .....	33
同一のサーバーまたはファームへのリストア .....	41
代替サーバーまたはファームへのリストア .....	48
<b>NetVault BackupおよびPlug-in for FileSystemを使用して保護する追加アイテム .....</b>	<b>70</b>
概要 .....	70
カスタマイズ .....	70
IIS設定 .....	71
代替アクセス・マッピング .....	71
SharePoint Farmの設定の記録 .....	71
<b>トラブルシューティング .....</b>	<b>72</b>
NetVault Backupトレースの有効化 .....	72
NetVault Backupトレースの無効化 .....	72
追加情報 .....	73
<b>弊社について .....</b>	<b>75</b>
弊社の社名は単なる名前ではありません .....	75
弊社のブランド、弊社のビジョン。お客様と共に。 .....	75
Questへのお問い合わせ .....	75
テクニカル・サポート用リソース .....	76

# NetVault Backup Plug-in for SharePoint — はじめに

- [NetVault Backup Plug-in for SharePoint : 概要](#)
- [主な利点](#)
- [機能概要](#)
- [対象ユーザー](#)
- [参考資料](#)

## NetVault Backup Plug-in for SharePoint : 概要

Quest® NetVault® Backup Plug-in for SharePoint (Plug-in for SharePoint) は、メディア障害および広範囲にわたるデータ損傷からの保護を提供します。本プラグインでは、Web ベースのユーザー・インターフェイス (WebUI) と自動化されたワークフロー・プロセスを使用して、集中的な手段で SharePoint のバックアップおよびリストアのポリシーを確立、設定、定義できます。本プラグインではきめ細かい制御が可能で、ファーム全体、個別の Web アプリケーション、または個別のコンテンツ・データベースをバックアップおよびリストアできるため、ダウンタイムを最小限に抑えられます。幅広いバックアップ・デバイスが統合されるため、データの保護およびオフサイトへの保存によって障害復旧および業務継続性の目標が満たされるという安心感を得ることができます。

## 主な利点

- **プラグイン・システム構築時の確実性を向上** : 本プラグインでは、スクリプトの作成は必要ありません。また、多様なリカバリ・シナリオに対応できる柔軟性を備えています。SharePoint PowerShell Cmdlets および STSADM ユーティリティを使用して、本プラグインは SharePoint Farm 全体 (設定データベースと共有サービス・プロバイダ (SSP) や個別のサイト・コレクションを含む) をバックアップするための柔軟性を提供します。

本プラグインのバックアップ機能には、以下のものもあります。

- データをオンラインでアクセス可能な状態でのフル、および差分バックアップを実行する
- 個別のサイト・コレクションのバックアップ

プラグインを使用してバックアップ・ポリシーを実装すると、障害発生時に必要となるリカバリ作業をおろそかにすることなく、より重要なタスクに専念することができます。また、SharePoint データが保護されていることが分かっているため、IT 管理者の安心感は高まります。

- **高速なリストアによりダウンタイムを短縮** : Plug-in for SharePoint では、DBA は、リカバリ・プロセスに必要なそれぞれのコマンドを発行するときに介入を最小限に抑え、それによってさまざまなバックアップ・デバイスからのより高速で信頼性の高いリカバリを実現します。また、本プラグインでは、

ファーム全体、個別の Web アプリケーション、および個別のコンテンツ・データベースを復元するための詳細なレベルの制御を提供することで、ダウンタイムを最小限に抑えます。

この他、Plug-in for SharePoint は以下のリストアおよびリカバリ機能を備えています。

- フル、および差分リストア
  - ファーム全体、個別の Web アプリケーション、または個別のコンテンツ・データベースのリストア
  - 代替 SharePointFarm へのサイト・コレクションの移動
  - 同じまたは代替の SharePointFarm へのディザスタ・リカバリ
- **ビジネスの継続性を確保**：ビジネス上重要なアプリケーションのデータ保護でオフサイト・バックアップは重要です。本プラグインは幅広いバックアップ・デバイスと NetVault Backup との統合を有効に活用します。NetVault Backup では、バックアップの保存先バックアップ・デバイスを柔軟に選択することができます。バックアップをオンラインで仮想テープ・ライブラリ (VTL) に保存できます。また、複数の SharePoint インスタンス、その他の専用データベース、または一般的なバックアップ・ファイルで共有される物理テープ・ライブラリにも、そのジョブを複製できます。

Plug-in for SharePoint によって、ディザスタ・リカバリに備えて、お使いの SharePoint 環境が保護され、オフサイトに保存されているという安心感が得られます。同時に、経験が浅くてもリストアを開始できるため、ダウンタイムが短縮され、ビジネス継続性が高まることから、管理者は常時待機している必要がなくなります。

## 機能概要

- データをオンラインでアクセス可能にした状態でフル、および差分バックアップを実行する
- 個別のサイト・コレクションのバックアップ
- サイト・コレクション・レベルまで保護
- ファーム全体、個別の Web アプリケーション、または個別のコンテンツ・データベースのリストア
- 代替 SharePointFarm へのサイト・コレクションの移動
- 同じまたは代替の SharePointFarm へのディザスタ・リカバリ
- ポイント・アンド・クリック WebUI

## 対象ユーザー

ルーチンのバックアップ操作の作成および実行にデータベース管理者の高度なスキルは必要ありませんが、効率性の高いバックアップおよびリカバリ戦略の策定にはこのスキルが必要です。

# 参考資料

Quest は、本プラグインの設定時および使用中に以下のドキュメンテーションをすぐに利用できるよう準備しておくことをお勧めします。

- **Microsoft SharePoint のマニュアル** : <https://docs.microsoft.com/en-us/sharepoint/sharepoint-server>
- **STSADM コマンドライン・ツール** : [http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc261956\(v=office.12\).aspx](http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc261956(v=office.12).aspx)
- **SharePoint PowerShell Cmdlets**: <https://docs.microsoft.com/en-us/powershell/module/sharepoint-server/?view=sharepoint-ps>
- **NetVault Backup ドキュメンテーション**
  - Quest NetVault Backup インストール・ガイド : このガイドでは、NetVault Backup サーバーおよびクライアント・ソフトウェアのインストール方法について詳しく説明しています。
  - Quest NetVault Backup アドミニストレーターズ・ガイド : このガイドでは、NetVault Backup の使用方法と、すべてのプラグインで共通の機能について詳説します。
  - Quest NetVault Backup CLI リファレンス・ガイド : このガイドでは、コマンドライン・ユーティリティの詳細な説明を提供します。

これらのガイドは、<https://support.quest.com/technical-documents> からダウンロードできます。

# プラグインの構成、インストールおよび削除

- [プラグイン・システム構築](#)
- [プラグインのインストールまたはアップグレード](#)
- [プラグインの削除](#)

## プラグイン・システム構築

Microsoftは、単一のサーバー、小規模ファーム、またはスケールアウトされたファームへのSharePoint環境の導入をサポートしています。これらのそれぞれの環境でのプラグイン・システム構築は、SharePoint Webサーバーのロールを実行しているサーバーへのプラグインのインストールとほぼ同様です。SharePoint環境全体またはファームのバックアップは、プラグインのこの1つのインストールから実行されます。

次のトピックでは、単一サーバー、小規模ファーム、またはスケールアウトされたファームへのプラグインの導入、およびそれぞれのタイプの導入に必要な前提条件について説明します。

- [SharePoint 2010、2013、2016の用語](#)
- [単一サーバーへの導入](#)
- [小規模ファームへの導入](#)
- [スケールアウトされたファームへの導入](#)



## SharePoint 2010、2013、2016の用語

SharePointに含まれる各種サービスは、使用しているバージョンによって名前が異なります。本書では、次の汎用的なサービス名が使用されています。

表1. 汎用的なサービス名

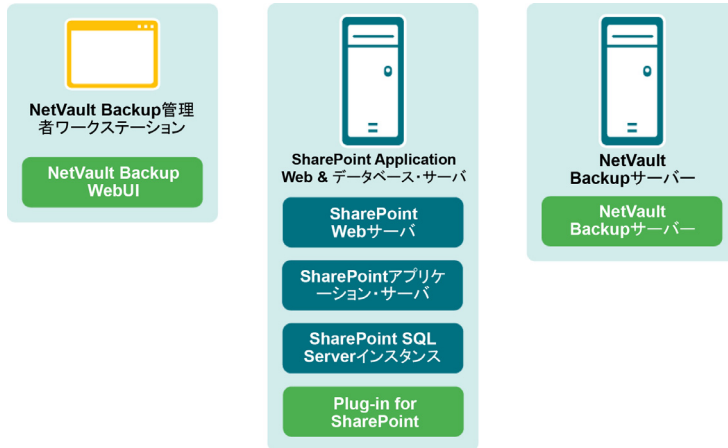
汎用的なサービス名	Microsoft SharePoint Foundation 2010	Microsoft SharePoint Server 2010	Microsoft SharePoint Foundation 2013	Microsoft SharePoint Server 2013	Microsoft SharePoint Server 2016
SharePoint Administration	SharePoint 2010 Administration	SharePoint 2010 Administration	SharePoint Administration	SharePoint Administration	SharePoint Administration
SharePoint Timer	SharePoint 2010 Timer	SharePoint 2010 Timer	SharePoint Timer Service	SharePoint Timer Service	SharePoint Timer Service
SharePoint Tracing	SharePoint 2010 Tracing	SharePoint 2010 Tracing	SharePoint Tracing Service	SharePoint Tracing Service	SharePoint Tracing Service
SharePoint Search	SharePoint Foundation Search V4	— SharePoint Server Search 14 <sup>a</sup> — SharePoint Foundation Search V4	SharePoint Server Search 15	SharePoint Server Search 15	SharePoint Server Search 15

a. フルテキストのインデックス作成と検索機能が強化されています。SharePointのユーザー・コンテンツ検索のためのSharePoint Foundation Searchサービスを置き換えます。

# 単一サーバーへの導入

単一サーバーへの導入では、SharePoint SQL Serverインスタンス、アプリケーション・サーバー、およびWebサーバーがすべて同じコンピュータまたはサーバー上に存在します。プラグインが単一サーバーにインストールされ、このサーバーからすべてのバックアップおよびリストアを実行します。

図1. 単一サーバーへの導入に導入されたプラグイン



## 単一サーバーへの導入の前提条件

以下の前提条件を満たしていることを確認します。

- ローカル・コンピュータの管理者グループのメンバーであるユーザー・アカウントを設定します。
- SharePoint Serverに一時ファイルのディレクトリを作成します。ここに、SharePoint PowerShell CmdletsまたはSTSADMによって作成された一時的なバックアップ・パッケージが格納されます。

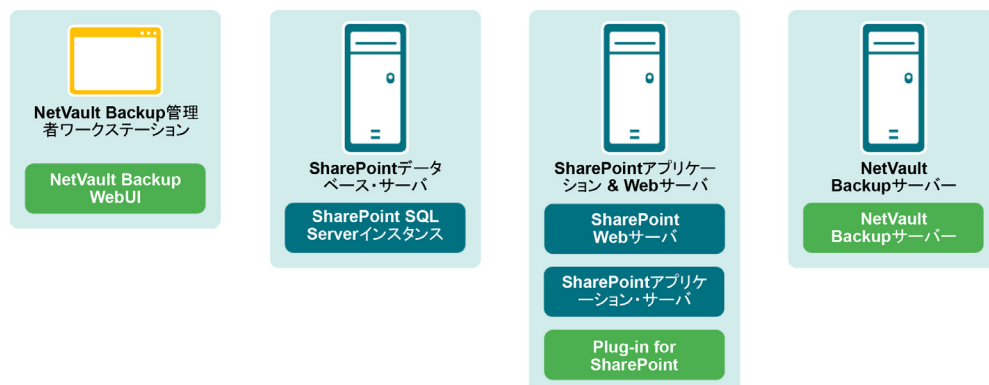
すべてのバックアップは、このディレクトリに、バックアップ・パッケージと呼ばれる情報を格納します。フル・バックアップは、それ以降のすべての差分バックアップのベースになるため、フル・バックアップのバックアップ・パッケージは、差分バックアップを実行するために必要です。このため、Questは、バックアップ・シーケンスのすべてのバックアップで同じディレクトリを使用することをお勧めします。また、Questは、新しいフル・バックアップを実行する前に、このディレクトリをクリーン・アップすることをお勧めします。

- Windowsのコントロール・パネルで **[SharePoint管理]** サービスが起動していることを確認します。このサービスは、単一サーバーへの導入の場合、デフォルトでは開始されません。

# 小規模ファームへの導入

小規模ファームへの導入では、SharePoint SQL Serverインスタンスは専用サーバーに、アプリケーション・サーバーとWebサーバーはともにそれとは別のサーバーに配置されます。プラグインは、アプリケーション・サーバーとWebサーバーが常駐しているサーバーにインストールされ、このサーバーからすべてのバックアップおよびリストアを実行します。

図2. 小規模ファームへの導入に導入されたプラグイン



## 小規模ファームへの導入の前提条件

以下の前提条件を満たしていることを確認します。

- 次の条件でドメイン・ユーザー・アカウントを作成します。
  - SharePointセットアップが実行している各サーバーの管理者グループのメンバーである。
  - 次のSQL Serverのセキュリティ・ロールのメンバーである。
    - Logins
    - Securityadmin
    - Dbcreator
- SharePoint 2013以降では、ドメイン・ユーザー・アカウントに「SP\_DATA\_ACCESS」ロールがあることを確認します。詳細は、「SharePoint 2013以降に対する「SP\_DATA\_ACCESS」ロールの割り当て」を参照してください。
- 一時ファイル用のディレクトリを作成します。ここに、SharePoint PowerShell CmdletsまたはSTSADMによって作成された一時的なバックアップ・パッケージが格納されます。

小規模ファームでは、UNC (Universal Naming Convention) 共有パス (\\machine\_name\SPbackup、など) を使用して、SQL Serverデータベースと検索コンポーネントが同じ場所に書き込まれるようにします。このディレクトリは存在し、SharePoint Farm内のすべてのサーバーからアクセスできる必要があります。

さらに、ファイル共有のアクセス許可「**変更**」および「**読み取り**」がドメイン・アカウントのユーザーに付与されていることを確認します。

すべてのバックアップは、このディレクトリに、バックアップ・パッケージと呼ばれる情報を格納します。フル・バックアップは、それ以降のすべての差分バックアップのベースになるため、フル・バックアップのバックアップ・パッケージは、差分バックアップを実行するために必要です。このため、Questは、バックアップ・シーケンスのすべてのバックアップで同じディレクトリを使用すること、および新しいフル・バックアップを実行する前に、このディレクトリをクリーン・アップすることをお勧めします。

**i** **重要**：関連付けられていないSharePoint Farmは、一時ファイルのディレクトリに同じUNC共有を使用しないでください。使用した場合、SharePoint PowerShell CmdletsまたはSTSADMのバックアップ履歴に無関係なファームのバックアップが含まれ、必要もなく複雑になる可能性があります。

- Windowsサービスで **[SharePoint管理]** サービスが起動していることを確認します。このサービスは、小規模ファームへの導入の場合、デフォルトでは開始されません。

## スケールアウトされたファームへの導入

スケールアウトされたファームへの導入では、SharePoint SQL Serverインスタンス、アプリケーション・サーバー、およびWebサーバーがそれぞれ1台の専用サーバー上に存在します。オプションで、SharePoint管理者は、余分の専用Webサーバーを導入できます。プラグインは単一のWebサーバーまたはアプリケーション・サーバーにインストールされ、このサーバーからすべてのバックアップおよびリストアを実行します。

図3. スケールアウトされたファームへの導入に導入されたプラグイン



## スケールアウトされたファームへの導入の前提条件

以下の前提条件を満たしていることを確認します。

- 次の条件でドメイン・ユーザー・アカウントを作成します。
  - SharePointセットアップが実行している各サーバーの管理者グループのメンバーである。
  - 次のSQL Serverのセキュリティ・ロールのメンバーである。
    - Logins
    - Securityadmin
    - Dbcreator
- SharePoint 2013以降では、ドメイン・ユーザー・アカウントに「SP\_DATA\_ACCESS」ロールがあることを確認します。詳細は、「SharePoint 2013以降に対する「SP\_DATA\_ACCESS」ロールの割り当て」を参照してください。
- 一時ファイル用のディレクトリを作成します。ここに、SharePoint PowerShell CmdletsまたはSTSADMによって作成された一時的なバックアップ・パッケージが格納されます。

スケールアウトされたファームでは、UNC共有パス（\\machine\_name\SPbackup、など）を使用して、SQL Serverデータベースと検索コンポーネントが同じ場所に書き込まれるようにします。このディレクトリは存在し、SharePoint Farm内のすべてのサーバーからアクセスできる必要があります。

さらに、ファイル共有のアクセス許可「**変更**」および「**読み取り**」がドメイン・アカウントのユーザーに付与されていることを確認します。

すべてのバックアップは、このディレクトリに、バックアップ・パッケージと呼ばれる情報を格納します。フル・バックアップは、それ以降のすべての差分バックアップのベースになるため、フル・バックアップのバックアップ・パッケージは、差分バックアップを実行するために必要です。このため、Questは、バックアップ・シーケンスのすべてのバックアップで同じディレクトリを使用することをお勧めします。また、Questは、新しいフル・バックアップを実行する前に、このディレクトリをクリーン・アップすることをお勧めします。

**i** | **重要**：関連付けられていないSharePoint Farmは、一時ファイルのディレクトリに同じUNC共有を使用しないでください。使用した場合、SharePoint PowerShell CmdletsまたはSTSADMのバックアップ履歴に無関係なファームのバックアップが含まれ、必要もなく複雑になる可能性があります。

- Windowsサービスで **[SharePoint管理]** サービスが起動していることを確認します。このサービスは、スケールアウトされたファームへの導入の場合、デフォルトでは開始されません。

## SharePoint 2013以降に対する「SP\_DATA\_ACCESS」ロールの割り当て

「SP\_DATA\_ACCESS」データベース・ロールはSharePoint 2013以降のデータベース・アクセスのデフォルト・ロールですが、Questは、ドメイン・ユーザー・アカウントに「SP\_DATA\_ACCESS」ロールがあることを確認することをお勧めします。

- 1 SharePoint SQL Serverインスタンスが存在するサーバーで、**SQL Server Management Studio**を開きます。
- 2 **オブジェクト・エクスプローラ**で、**[セキュリティ]** フォルダに移動します。
- 3 **[セキュリティ]** フォルダの下の **[ログイン]** を選択します。
- 4 ドメイン・ユーザー・アカウントの名前を右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。
- 5 **[ログイン・プロパティ]** ダイアログ・ボックスで、**[ユーザー・マッピング]** を選択します。
- 6 データベースのリストで、SharePoint設定データベースを選択します。

例：SharePoint\_Config

- 7 **[データベース・ロールのメンバーシップ]** セクションで、以下のオプションを選択します。
  - **Public**
  - **SharePoint\_Shell\_Access**
  - **SPDataAccess**
  - **WSS\_Content\_Application\_Pools**


また、Questは、「**db\_accessadmin**」ロールを選択することをお勧めします。

- 8 他のSharePoint設定データベースに同じロールのメンバーシップを追加します。これには、次のものが含まれます。
  - **SharePoint\_AdminContents**
  - **SharePoint\_Config**
  - **WSS\_Content**
- 9 変更を保存するには、**[OK]** をクリックします。


# プラグインのインストールまたはアップグレード

- 1 [NetVault設定ウィザード] または [クライアント管理] ページにアクセスします。

**i** **メモ:** 選択されたクライアントがすべて同じタイプの場合、設定ウィザードを使用して複数のクライアントに同時にプラグインをインストールできます。複数のクライアントを選択する場合、プラグインのバイナリ・ファイルがターゲット・クライアントのOSとプラットフォームと互換性があることを確認する必要があります。[クライアント管理] ページでは、プラグインをインストールするクライアントを1つのみ選択できます。

- [NetVault設定ウィザード] ページにアクセスするには：
    - a [ナビゲーション] パネルで、[ガイド付き設定] をクリックします。
    - b [NetVault設定ウィザード] ページで、[プラグインのインストール] をクリックします。
    - c 次のページで、利用可能なクライアントを選択します。
  - [クライアント管理] ページにアクセスするには：
    - a [ナビゲーション] パネルで、[クライアント管理] をクリックします。
    - b [クライアント管理] ページで、SharePoint Serverがあるマシンを選択して、[管理] をクリックします。
    - c [クライアント表示] ページで、[プラグインのインストール] ボタン (  ) をクリックします。
- 2 [プラグイン・ファイルの選択] をクリックして、プラグインの.npkインストール・ファイルの場所（インストール用CDや、Webサイトからファイルをダウンロードしたディレクトリなど）へ移動します。  
インストールCDでは、このソフトウェアのディレクトリ・パスはOSによって異なります。
  - 3 「sps-x-x-x-x.npk」というファイル（xxxxxはバージョン番号とプラットフォームを表す）を選択し、[開く] をクリックします。
  - 4 インストールを開始するには、[プラグインのインストール] をクリックします。  
プラグインが正常にインストールされると、メッセージが表示されます。

## プラグインの削除

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[クライアント管理] をクリックします。
- 2 [クライアント管理] ページで、利用可能なクライアントを選択して、[管理] をクリックします。
- 3 [クライアント表示] ページの [インストール済みソフトウェア] テーブルで、[Plug-in for SharePoint] を選択して [プラグインのアンインストール] ボタン (  ) をクリックします。
- 4 [確認] ダイアログ・ボックスで、[削除] をクリックします。

# プラグインの設定

- デフォルト設定の構成

## デフォルト設定の構成

プラグインでは、バックアップおよびリストア・ジョブのデフォルト・オプションを設定できます。これらのオプションは、ジョブごとに上書きできます。

**i | メモ:** デフォルトの [Windows 管理者名] を指定するには、[設定] ダイアログ・ボックスを使用します。

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[バックアップ・ジョブ作成] をクリックして、次に [セレクション] リストの隣にある [新規作成] をクリックします。
- 2 セレクション・ツリー内で適切なクライアント・ノードを開きます。
- 3 [Plug-in for SharePoint] をクリックして、コンテキスト・メニューから [設定] を選択します。
- 4 以下のパラメータを設定します。
  - **[Windows 管理者のユーザー名]** : 単一サーバーへの導入の場合は、「\username」形式でユーザー名を入力します。このユーザー名は、ローカル・コンピュータの管理者グループのメンバーです。  
小規模およびスケールアウトされたファームの場合は、「DOMAIN\username」の形式でドメインのユーザー名を入力します。アカウントが、先に「[小規模ファームへの導入の前提条件](#)」および「[スケールアウトされたファームへの導入の前提条件](#)」で説明された前提条件を満たしていることを確認します。
  - **[パスワード]** : 上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。セキュリティのため、このフィールドはデフォルトで空白表示されます。
  - **[PowerShell ファイル名 (フル・パスと実行形式ファイル名を入力します)]** : このフィールドには、PowerShell 実行形式ファイルのデフォルトの場所、「C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\PowerShell.exe」が自動的に入力されます。別の場所を使用している場合は、新しい場所を入力してフィールドを更新します。
  - **[SharePoint PowerShell スナップイン]** : このフィールドには、SharePoint 用 Windows PowerShell スナップインのデフォルト名、「Microsoft.SharePoint.PowerShell」がプラグインによって自動的に入力されます。別の名前を使用している場合は、新しい名前を入力してフィールドを更新します。
  - **[STSADM ファイル名 (フル・パスと実行形式ファイル名を入力します)]** : STSADM コマンド・ライン・ツールを指すフル・パスと実行形式ファイル名を入力します。たとえば、「C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions<version>\BIN\stsadm.exe」のようになります。<version> は、SharePoint 2010 の場合は「14」、SharePoint 2013 の場合は「15」、SharePoint 2016 の場合は「16」で置き換えます。デフォルトでは、Web 拡張がインストールされているディレクトリへのパスがプラグインによって入力されます。



- **すべてのリストアに対して STSADM ツールを使用します** : デフォルトでは、プラグインは SharePoint PowerShell Cmdlets を使用してリストアを実行します。プラグインが代わりに STSADM ユーティリティを使用するように指定する場合は、このオプションを選択します。

**i** | **メモ** : このオプションは、特定のバックアップ・セーブセットをリストアする前に選択できます。または、いつもこのオプションを使用するように指定することもできます。

- **一時ファイルのディレクトリ** : 一時的な SharePoint バックアップ・パッケージを保存するディレクトリを指定します。

小規模およびスケールアウトされたファームでは、UNC共有パス(\\machine\_name\SPbackup、など)を使用して、SQL Serverデータベースと検索コンポーネントが同じ場所に書き込まれるようにします。このディレクトリは存在し、SharePoint Farm内のすべてのサーバーからアクセスできる必要があります。詳細は、「[プラグイン・システム構築](#)」を参照してください。

**i** | **重要** : 最新のフル・バックアップのバックアップ・パッケージが削除または再配置されて指定されたディレクトリにはなくなった場合、すべての差分バックアップは失敗します。差分バックアップ・ジョブが正常に完了する前に、新しいフル・バックアップ・ジョブを実行します。

- **[テンポラリー・ディレクトリから (Days - 0 = never) より以前のバックアップを削除する]** : このオプションを使用して、SharePoint Farm の正常に実行されたフル・バックアップが、完了してからテンポラリー・ディレクトリに保存される期間を指定します。デフォルト設定は「**30**」です。削除を無効にして、テンポラリー・ディレクトリに格納されているすべてのバックアップを保持するには「**0**」を入力します。

**i** | **重要** : このオプションは、SharePoint Farmにのみ適用されます。サイト・コレクションのバックアップ(サイト・コレクションごとにファイルを1つだけ生成する)には影響しません。

このオプションは、テンポラリー・ディレクトリのみを対象にし、NetVault Backupメディア・マネージャによって維持および監視されているファイルには影響しません。

このオプションを使用するには、システムに使用される日付と時刻の形式とSharePointで使用される形式が一致する必要があります。詳細は、「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。

- **[選択したアイテムのバックアップが不完全の場合]** : このエラー状態が発生した場合、プラグインは以下のいずれかを実行できます。

- **[警告で終了 — 保存セットは保持されます]** : ジョブが **[バックアップが警告付きで完了]** というステータスを返し、正常にバックアップされたアイテムからなるバックアップ・セーブセットが作成されます。
- **[警告なしで完了 — 保存セットは保持されました]** : ジョブが完了し、**[バックアップ完了]** というステータスが返されます。エラーは NetVault Backup バイナリ・ログに記録され、**[ジョブ・ステータス]** ページでは無視されます。バックアップされたアイテムからなるバックアップ・セーブセットが作成されます。
- **[失敗 — セーブセットは保持されます]** : バックアップ・ジョブから **[バックアップ・ジョブ失敗]** というステータスが返されますが、正常にバックアップされたアイテムからなるバックアップ・セーブセットが作成されます。
- **[失敗 — セーブセットは保持されません]** : バックアップ・ジョブから **[バックアップ・ジョブ失敗]** というステータスが返され、バックアップされたオブジェクトのセーブセットは保持されません。選択された一部のオブジェクトが正しくバックアップされた場合も削除されます。



以下のいずれかの状況が発生した場合、本プラグインは**【選択したアイテムのバックアップが不完全の場合】**設定を上書きし、画面に示すと通りの処理を実行します。

- 致命的なエラーが発生した場合、ジョブは「**バックアップ失敗**」ステータスを返します。
- バックアップ・ターゲットが読み取り専用ファイルグループであるデータベース上で、部分バックアップまたは差分部分データベースのバックアップが実行された場合、ジョブは**【バックアップは警告で完了しました】**ステータスを返します。

5 設定を保存するには、**【OK】** をクリックします。

アカウントが正しく設定されていれば、**【SharePoint APM】** ノードをクリックすると、使用可能なファームが表示されます。

# データのバックアップ

- バックアップおよびリカバリ戦略の定義
- バックアップの実行

## バックアップおよびリカバリ戦略の定義

SharePointのバックアップを作成する目的は、メディア障害またはデータの破損によって損傷したSharePoint Farmをリカバリすることです。バックアップを使用して確実にリカバリするには、定義されたビジネス要件を考慮して、データの可用性を最大限に確保しながらデータ損失を最小限に抑えるよう戦略を策定する必要があります。

戦略は、バックアップ要素とリストア要素の2つの要素からなります。

- バックアップ要素では、データベースの可用性確保およびデータ損失の最小化の目標を達成するために必要なバックアップのタイプと実行頻度を定義します。
- リストア要素では、リストアの実行責任者と、特定タイプの損傷または障害からリカバリするためにどのようなリストアを実行するかを定義します。

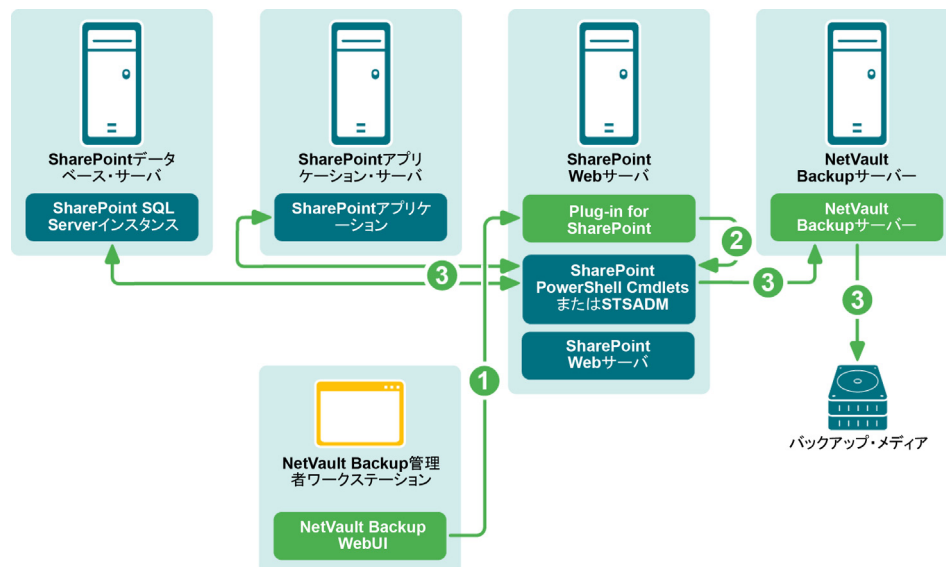
## 利用可能なバックアップ方法

SharePoint Farm全体または個別のサイト・コレクションをバックアップおよび復元するために、本プラグインでは、以下のバックアップ方法を使用できます。

- **SharePoint PowerShell Cmdlets:** SharePoint PowerShellベースのCmdletsはMicrosoftが提供するコマンドで、さまざまな操作を実行できます。
- **STSADM:** STSADMはMicrosoft提供のツールで、SharePointサーバーとサイトをコマンドラインで管理します。

# SharePointのバックアップ・プロセスについて

図4. SharePointのバックアップ・プロセスの概要



- 1 ユーザーがNetVault Backup WebUIでバックアップ・ジョブを定義します。
- 2 選択したバックアップ方法（SharePoint PowerShell CmdletsまたはSTSADM）によって、プラグインはジョブ定義を対応するSharePoint PowerShell CmdletsまたはSTSADMのバックアップ・コマンドに変換します。
- 3 SharePoint PowerShell CmdletsまたはSTSADMは、バックアップ・コマンドを実行して、SharePointからデータを読み取り、そのバックアップをNetVault Backupによって管理されるバックアップ・デバイスに保存します。

## タイプの確認

プラグインでは、以下のバックアップ・タイプを使用できます。

- フル・バックアップ
- 差分バックアップ
- 個別のサイト・コレクション

SharePointの導入を完全に保護するために、次の項目のバックアップが使用可能です。詳細については、[NetVault BackupおよびPlug-in for FileSystemを使用して保護する追加アイテム](#)を参照してください。

- カスタマイズ
- 代替アクセス・マッピング
- SharePoint Farmの設定

## フル・バックアップ

フル・バックアップは実行できるバックアップ・タイプの中で最も一般的なものです。SharePoint Farm全体をバックアップして、ディザスタ・リカバリ、メディア障害、または多数のコンテンツ・データベースまたはサイト・コレクションのデータ破損に備えます。

フル・バックアップではバックアップの容量が大きくなり時間が長くなるため、通常は差分バックアップをより頻繁に作成して補足します。フル・バックアップでは、1つのステップでSharePoint Farmを再作成できます。そ

のために、同じフル・バックアップからファーム全体をリストアすることも、個々のWebアプリケーションまたはコンテンツ・データベースをリストアすることもできます。

**NetVault Backup [セレクション]** ページで個々のWebアプリケーションまたはサイト・コレクションが選択されている場合でも、フル・バックアップ中にはSharePoint Farm全体がバックアップされます。フル・バックアップはその他のいかなるバックアップにも依存することなく、ひとつの手順でリストアすることができます。

## 差分バックアップ

差分バックアップでは、最後のフル・バックアップ以降に変更されたデータのみをバックアップします。差分バックアップはフル・バックアップよりも少量で高速なため、データ損失のリスクが軽減されます。

差分バックアップは、一部のサイト・コレクションが他のコレクションより頻繁に変更される場合に便利です。この場合、フル・バックアップに伴うオーバーヘッドを負うことなく、差分バックアップによって頻繁にバックアップを実行できます。

差分バックアップには、「ベース」となるバックアップ（フル・バックアップ）が常に必要となります。先にフル・バックアップを実行しないで差分バックアップを実行すると、バックアップは失敗に終わり、さらにSharePoint Farmの適切なリストアやリカバリができなくなります。

## 個別のサイト・コレクション

個別のサイト・コレクションのバックアップは、個別のサイト・コレクションのサブセットのみを保護する場合や、1つまたは複数のサイト・コレクションをテスト環境に複製する場合に、理想的なオプションです。個別のサイト・コレクションのバックアップは、確立されたバックアップ・シーケンスから独立しているため、ファームのフル・バックアップ、または差分バックアップのリカバリ可能性には影響しません。ただし、フル・バックアップや差分バックアップ戦略の代わりとしては**使用しないでください**。

## バックアップ・シーケンス例

以下に、SharePointのデータ保護要件を満たすために実装できる、複数のリストア・シナリオに対応可能なバックアップ・シーケンスの例をいくつか示します。

- **フル・バックアップのみ**：要件によって前日までのデータ保護が保証されている状態で、以下の1つまたは複数の条件に該当する場合、フル・バックアップを毎晩実行すれば十分です。
  - バックアップ時間枠が大きい。
  - データベースが小さい
  - SharePoint Farm全体で更新が頻繁でない。
  - データベースがテストまたは開発目的にのみ使用される。
- **フル・バックアップと差分バックアップの併用**：要件によって前日までのデータ保護が保証されている状態で、バックアップ時間をできる限り短縮する必要がある場合、フル・バックアップと差分バックアップを組み合わせた戦略が有効です。たとえば、フル・バックアップを毎週日曜日の午後11時に実行し、差分バックアップを月曜日から土曜日の午後11時に実行します。各差分バックアップには、最後のフル・バックアップ（差分ベース）以降のすべての変更が含まれます。

リカバリをいつ実行するかに関係なく、必要なリストア・ジョブの数は同じです。たとえば、火曜日にリカバリを実行する場合、日曜日に実行したフル・バックアップと月曜日に実行した差分バックアップをリストアする必要があります。また、木曜日にリカバリを実行する場合、日曜日のフル・バックアップと水曜日の差分バックアップをリストアする必要があります。

差分バックアップは後になるほどサイズが大きくなり、時間も長くなりますが、実行する必要のあるリストア・ジョブの数は少なくなるため、リストア時間は短くなります。

# バックアップの実行

プラグインを使用してバックアップを実行するには、以下のトピックで説明する手順に従います。

- バックアップ対象データの選択
- バックアップ・オプションの設定
- ジョブのファイナライズと実行

## バックアップ対象データの選択

バックアップ・ジョブを作成するには、セット（バックアップ・セレクション・セット、バックアップ・オプション・セット、スケジュール・セット、ターゲット・セット、および詳細設定セット）を使用する必要があります。

バックアップ・セレクション・セットは、増分バックアップに必要です。フル・バックアップを実行中に、バックアップ・セレクション・セットを作成してから、増分バックアップに使用します。増分バックアップにセレクション・セットが使用されていない場合、バックアップ・ジョブがエラーをレポートします。詳しくは、『Quest NetVault Backupアドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

**i** | **ヒント**：既存のセットを使用するには、**[バックアップ・ジョブ作成]** をクリックして、**[選択]** リストからセットを選択します。

- 1 **[ナビゲーション]** パネルで、**[バックアップ・ジョブ作成]** をクリックします。

[ガイド付き設定] リンクからウィザードを開始することもできます。**[ナビゲーション]** パネルで、**[ガイド付き設定]** をクリックします。**[NetVault設定ウィザード]** ページで、**[バックアップ・ジョブ作成]** をクリックします。

- 2 **[ジョブ名]** に、ジョブの名前を指定します。

ジョブの進捗状況の監視やデータのリストアップ時にジョブを識別しやすくするため、分かりやすい名前を割り当てます。ジョブ名には英数字と英数字以外の文字を使用できませんが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windowsの場合、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40文字以内にすることを勧めます。

- 3 **[選択]** リストの隣にある、**[新規作成]** をクリックします。

- 4 プラグインのリストで **[Plug-in for SharePoint]** を開くと、**[ファーム]** ノードが表示されます。

- 5 フル・バックアップまたは差分バックアップを実行する場合は、**[ファーム]** ノードを選択します。

**[ファーム]** または **[ルート]** ノードを選択すると、すべてのアイテムが自動的に選択されます。

**i** | **重要**：選択ツリーで **[ファーム]** ノードが選択されている場合（すべての項目には白の背景で緑のチェックマークが付いている）、**[バックアップ・オプション]** タブでバックアップ・タイプとして **[フル]** または **[差分]** を選択します。

- 6 個別のサイト・コレクションのバックアップを実行する場合、**[ファーム]** ノードを展開してWebアプリケーションのアイコンを表示し、選択ツリーで該当する **[サイト・コレクション]** ノードに移動し、バックアップに含めるサイト・コレクションを選択します。

次のオブジェクトのグループを選択できます。

- **Webアプリケーションのすべてのサイト・コレクション**
- **個別のサイト・コレクション**

**i 重要：**以下の事項に注意する必要があります。

- Webアプリケーションにサイト・コレクションが含まれていない場合、**[サイト・コレクション]** ノードは展開しません。
- **[セクション]** ページで細分化された一連のサイト・コレクションが選択されている場合、すなわち個別のサイト・コレクションは白い背景で緑色のチェックマークが表示されているのに対し、**[ファーム]** ノードはグレーの背景で緑色のチェックマークが表示されているときは、バックアップ・タイプとして**[個別のサイト・コレクション]** を選択します。
- SharePoint環境に数千の個別のサイト・コレクションがある場合は、**[サイト・コレクション]** ノードを展開するのに数分かかることがあります。Questは、最も重要なサイト・コレクションを保護するためには**[個別のサイト・コレクション]** のバックアップ・タイプだけを使用することをお勧めします。個別のサイト・コレクションが数千もある場合は、それらすべてを1つのバックアップに含めないでください。すべてを含めると、そのバックアップ・ジョブは失敗します。

- 7 **[保存]** をクリックして、**[新規セットの作成]** ダイアログ・ボックスに名前を入力し、**[保存]** をクリックします。

名前には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Linuxの場合、名前は最大で200文字です。Windowsの場合、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40文字以内にするをお勧めします。

## バックアップ・オプションの設定

次の手順には、バックアップ・オプション・セットの作成または既存のセットの選択が含まれています。

**i ヒント：**既存のセットを使用するには、**[プラグイン・オプション]** リストで使用するセットを選択します。

- 1 **[プラグイン・オプション]** リストの隣にある、**[新規作成]** をクリックします。

- 2 **[バックアップ方法]** セクションで、利用可能なオプションを選択します。

- **SharePoint PowerShell Cmdletsの使用：**Cmdletsを使用してバックアップを実行するには、このオプションを選択します。
- **SharePoint Team Server Administration (STSADM) ツールの使用：**STSADMを使用してバックアップを実行するには、このオプションを選択します。

- 3 **[バックアップ・タイプ]** セクションで、利用可能なオプションを選択します。

- **フル：**SharePoint Farm全体をバックアップするには、このオプションを選択します。

**i 重要：**NetVault Backup **[セクション]** ページで**[ファーム]** ノードを選択した場合は、**[フル]** または**[差分]** を選択します。

- **差分：**最後に実行されたフル・バックアップ以降に更新されたデータをバックアップする場合に、このオプションを選択します。

**i 重要：**フル・バックアップの完了後にコンテンツ・データベースがSharePoint SQL Server インスタンスに追加されると、差分バックアップは失敗し、SharePoint PowerShell Cmdlets またはSTSADMの次のようなエラーが発生します。「現在のデータベースのバックアップが存在しないため、データベースの差分バックアップを実行できません」と表示されます。このエラーを回避するには、フル・バックアップを完了してから追加の差分バックアップを実行してください。たとえば、フル・バックアップを毎週日曜日に実行し、差分バックアップを月曜日から土曜日の夜に実行し、水曜日の午後に新しいコンテンツ データベースに保存された新しいWebアプリケーションが作成された場合、水曜日の夜の差分バックアップは失敗します。差分バックアップを正常に完了させるには、フル・バックアップを実行する必要があります。

- **個別のサイト・コレクション**：個別のサイト・コレクションのサブセットをバックアップする場合や、1つまたは複数のサイト・コレクションをテスト環境に複製する場合は、このオプションを選択します。

**i** | **重要**：NetVault Backup [セクション] ページで細分化された一連のサイト・コレクションが選択されている場合は、**[個別のサイト・コレクション]** を選択します。

#### 4 [追加オプション] セクションで、利用可能なオプションを選択します。

- **バックアップ・スレッド数**：フル・バックアップまたは差分バックアップの場合、バックアップ中に使用するスレッド数を指定します。デフォルトは「1」です。Microsoftの推奨値は「3」です。スレッドの数が少ないほど、バックアップ・ログ・ファイルの読み取りが簡単になります。
- **選択したアイテムのバックアップが不完全の場合（個別のサイト・コレクションのバックアップでのみ使用可能）**：個別のサイト・コレクションのバックアップに複数のアイテムが含まれていて、選択されたアイテムのうちプラグインで正しくバックアップできないアイテムがある場合、プラグインでは、バックアップで実行するアクションを指定できます。たとえば、ジョブに5つのサイト・コレクションが含まれ、4番目までのサイト・コレクションは正しくバックアップされたが5番目のバックアップに失敗した場合、そのバックアップ・ジョブによって実行するアクションを指定できます。プラグインは、以下のいずれかを実行できます。
  - **[警告で終了 — 保存セットは保持されます]**：ジョブが**[バックアップが警告付きで完了]**というステータスを返し、正常にバックアップされたアイテムからなるバックアップ・セーブセットが作成されます。
  - **[警告なしで完了 — 保存セットは保持されました]**：ジョブが完了し、**[バックアップ完了]**というステータスが返されます。エラーはNetVault Backupバイナリ・ログに記録され、**[ジョブ・ステータス]** ページでは無視されます。バックアップされたアイテムからなるバックアップ・セーブセットが作成されます。
  - **[失敗 — セーブセットは保持されず]**：バックアップ・ジョブから**[バックアップ・ジョブ失敗]**というステータスが返されますが、正常にバックアップされたアイテムからなるバックアップ・セーブセットが作成されます。
  - **[失敗 — セーブセットは保持されません]**：バックアップ・ジョブから**[バックアップ・ジョブ失敗]**というステータスが返され、バックアップされたオブジェクトのセーブセットは保持されません。選択された一部のオブジェクトが正しくバックアップされた場合も削除されます。
- **一時ファイルのディレクトリ**：このフィールドには、SharePointのために一時的なバックアップ・パッケージを保存するディレクトリを指定します。デフォルトでは、このフィールドには**[設定]** ダイアログ・ボックスで指定したディレクトリが表示されます。ただし、ジョブごとに上書きはできません。

小規模およびスケールアウトされたファームでは、UNC共有パスを使用して、SQL Serverデータベースと検索コンポーネントが同じ場所に書き込まれるようにします。詳細は、「**プラグイン・システム構築**」を参照してください。

**i** | **重要**：最新のフル・バックアップのバックアップ・パッケージが削除または再配置されて指定されたディレクトリにはなくなった場合、すべての差分バックアップは失敗します。差分バックアップ・ジョブが正常に完了する前に、新しいフル・バックアップ・ジョブを実行します。

#### 5 セットを保存するには**[保存]** をクリックして、**[新規セットの作成]** ダイアログ・ボックスに名前を入力し、**[保存]** をクリックします。

名前には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windowsの場合、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40文字以内にするをお勧めします。



# ジョブのファイナライズと実行

最終ステップには、[スケジュール]、[ターゲット・ストレージ]、および [詳細設定] ページの追加オプション設定、ジョブの実行、および [ジョブ・ステータス] と [ログ参照] ページからの進捗状況の監視が含まれています。これらのページとオプションは、すべてのNetVault Backupプラグインに共通しています。詳しくは、『Quest NetVault Backupアドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

- 1 [スケジュール]、[ターゲット・ストレージ]、および [詳細設定] リストを使用して、その他の必要なオプションを設定します。
- 2 [保存] または [保存 & 実行] の、どちらか適切な方をクリックします。

**i | ヒント:** すでに作成および保存しているジョブを実行するには、[ナビゲーション] パネルで [ジョブ定義管理] を選択し、目的のジョブを選択して、[今すぐ実行] をクリックします。

[ジョブ・ステータス] ページで進捗状況を監視したり、[ログ参照] ページでログを表示したりできます。詳しくは、『Quest NetVault Backupアドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。



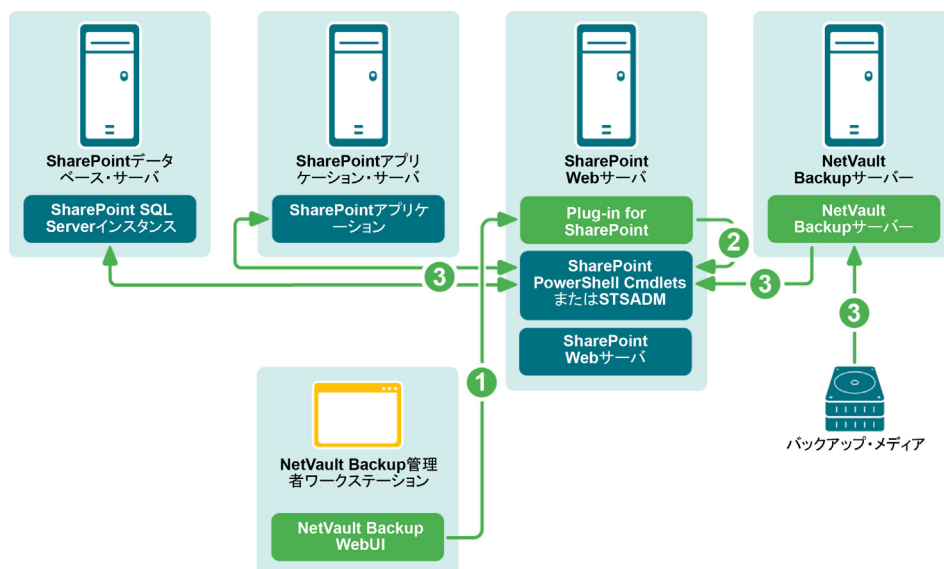
## データのリストア

- SharePoint のリストア・プロセスについて
- SharePoint におけるバックアップのリストア
- 単一のフル・バックアップ、フル+差分のシーケンス、または個別のサイト・コレクションのバックアップのリストア
- その他のリストア手順

### SharePointのリストア・プロセスについて

このトピックでは、プラグインを使用したファーム、Web アプリケーション、および個別のコレクション・サイトのリストアとリカバリの概要について説明します。

図 5. リストア・プロセスの概要



- 1 ユーザーが NetVault Backup WebUI でリストア・ジョブを定義します。
- 2 本プラグインは、ジョブ定義を対応する SharePoint PowerShell Cmdlets または STSADM のリストア・コマンドに変換します。
- 3 SharePoint PowerShell Cmdlets または STSADM は、リストア・コマンドを実行して、NetVault Backup Server によって管理されているバックアップ・デバイスからデータを読み取り、データを SharePoint にリストアします。

**i** **メモ:** デフォルトでは、本プラグインは SharePoint PowerShell Cmdlets を使用してすべてのリストアを実行します。ただし、代わりに STSADM を使用するようにプラグインに指示することができます。詳細については、「**デフォルト設定の構成**」の「**すべてのリストアに対して STSADM ツールを使用する**」の説明を参照してください。

# 使用可能なリストアのタイプについて

リストアを正しく実行するには、使用可能なリストアのタイプについて十分に理解しておく必要があります。

- **単一のファームのフル・バックアップのリストア**：単一のフル・バックアップのリストアは、プラグインでリストア・シーケンスとして表示されます。そのため、一定の手順を実行して、単一のフル・バックアップをリストアし、そのリカバリされたデータを SharePoint で使用できるようにレンダリングする必要があります。
- **ファームのフル+差分バックアップ・シーケンスのリストア**：たとえば、毎週日曜日の午後 11 時にフル・バックアップが実行され、さらに月曜日から土曜日の午後 11 時に差分バックアップが実行されるとすると、いつリカバリを実行するかによってどのバックアップをリカバリする必要があるかが決定します。（たとえば、火曜日にリカバリを実行する場合、日曜日に実行したフル・バックアップと月曜日に実行した差分バックアップをリストアする必要があります。木曜日にリカバリを実行する場合、日曜日のフル・バックアップと水曜日の差分バックアップをリストアする必要があります。）フル・バックアップをリストアした後で、最新の差分バックアップをリストアします。
- **個別のサイト・コレクション・バックアップのリストア**：個別のサイト・コレクションのバックアップをリストアするとき、個別のサイト・コレクションが属している Web アプリケーションが存在することを確認します。Web アプリケーションが存在しない場合は、リストアを実行する前にその Web アプリケーションを再作成します。次に、個別のサイト・コレクションが格納されているコンテンツ・データベースのステータスが「**開始済み**」であることを **SharePoint サーバー管理**ユーティリティで確認します。これらの前提条件が満たされたら、利用可能なバックアップをリストアできます。

## SharePointにおけるバックアップのリストア

プラグインを使用して標準リストアを実行するには、以下のトピックで説明する手順に従います。

- **重要**：必要な場合には、フル・バックアップを使用して、Webアプリケーションのみをリストアするというオプションもあります。フル・バックアップをリストアするには、管理者グループのメンバーである必要があります。管理者権限を持っていない場合は、自分が権限を持っているWebアプリケーションからデータをリストアすることのみ、可能です。利用可能な権限がないリストア・ジョブを開始した場合、NetVault Backupによって「リストアに失敗しました」ステータスが表示されます。NetVault Backupのバイナリ・ログには、「SharePoint PowerShell Cmdletsが失敗しました」または「STSADMが失敗しました」というエラー・メッセージが表示されます。ステータスにはリストアが完了できなかったことが示されますが、自分が適切な権限を持っているデータはリストアされます。

## 前提条件の検証

以下の要件を満たしていることを確認します。

- **サービス開始済み**：[サービス] ウィンドウ ([スタート] > [コントロール・パネル] > [管理ツール] > [サービス] の順にクリックしてアクセスします) で、次のことを確認します。サービス名の詳細については、「[SharePoint 2010、2013、2016 の用語](#)」を参照してください。
  - **SharePoint 管理サービス**が「**開始済み**」であること。
  - **Windows SharePoint Services Web Application**、または 1 つまたは複数の Web アプリケーションを含む細分化されたリストアを実行している場合は、**SharePoint Timer** サービスが「**停止**」していることを確認する。この手順では、リストア・ジョブ中に更新の競合を回避します。
  - 単一サーバーへの導入のための SSP をリストアする場合は、**SharePoint Timer** サービスのステータスは「**開始済み**」です。

- **Web アプリケーション** : Web アプリケーション、コンテンツ・データベース、または個別のサイト・コレクションをリストアする場合は、その Web アプリケーションが存在することを確認します。Web アプリケーションが存在しない場合は、リストアを実行する前にそれを再作成します。この手順では、各 Web アプリケーションに関連付けられているタイマー・ジョブが作成されていることを確認します。

- 1 **SharePointサーバー管理**を開き、**[アプリケーション管理]** タブを選択します。
- 2 **[SharePoint Webアプリケーション管理]**セクションで、**[Webアプリケーションを作成または拡張]**をクリックします。
- 3 **[SharePoint Webアプリケーションの追加]**セクションで、**[新しいWebアプリケーションを作成する]**をクリックします。
- 4 **[新しいWebアプリケーションの作成]**ページで、新しいWebアプリケーションの設定を入力します。**[IIS Webサイト]**と**[データベース名]**が、ソースであるSharePoint導入に存在するWebアプリケーションと一致することを確認します。

**i 重要** : SharePoint Webアプリケーションをバックアップして、次にこのアプリケーションを新しいファームにリストアした場合、一部のSharePointのタイマー・ジョブの定義は正常にリストアされません。タイマー・ジョブが確実に作成されるようにリストアを実行する前にWebアプリケーションを作成する必要がありますが、それが不要になるようにする修正の詳細については、「<http://support.microsoft.com/kb/942989>」を参照してください。

- **コンテンツ・データベース** : 個別のサイト・コレクションをリストアするとき、その個別のサイト・コレクションが格納されているコンテンツ・データベースのステータスが「**開始済み**」であることを **SharePoint サーバー管理**ユーティリティで確認します。

- 1 **SharePointサーバー管理**を開き、**[アプリケーション管理]** タブを選択します。
- 2 **[SharePoint Webアプリケーション管理]**セクションで、**[コンテンツ・データベース]**をクリックします。
- 3 利用可能なデータベースのステータスが「**開始済み**」であることを確認します。

## リストア対象データの選択

- 1 **[ナビゲーション]** パネルで、**[リストア・ジョブ作成]** をクリックします。
- 2 **[リストア・ジョブ作成 - セーブセットの選択]** ページで、**[プラグイン・タイプ]** リストから **[Plug-in for SharePoint]** を選択します。
- 3 セーブセットのテーブルに表示されている項目をさらにフィルタリングするには、**[クライアント]**、**[日付]**、**[ジョブID]** リストを使用します。

表にはセーブセット名（ジョブ・タイトルとセーブセット ID）、作成日時、およびサイズが表示されます。デフォルトで、リストは **[作成日]** 列でソートされます。

次の表に、バックアップ・タイプごとの識別子を示します。

バックアップ方法	バックアップ・タイプ	バックアップ・タイプ識別子
SharePoint PowerShell Cmdlets	フル・バックアップ	SP CMDLET FULL
	差分バックアップ	SP CMDLET DIFFERENTIAL
	個別のサイト・コレクション	SP CMDLET INDIVIDUAL SITE
STSADM	フル・バックアップ	STSADM FULL
	差分バックアップ	STSADM DIFFERENTIAL
	個別のサイト・コレクション	STSADM INDIVIDUAL SITE

- 4 セーブセットの表で、適切な項目を選択します。

セーブセットを選択すると、以下の情報が【**セーブセット情報**】に表示されます。ジョブ ID、ジョブ・タイトル、サーバー名、クライアント名、プラグイン名、セーブセットの日時、リタイア設定、増分バックアップかどうか、アーカイブかどうか、セーブセットのサイズ、スナップショットベースのバックアップかどうかなど。





- 5 【**次へ**】をクリックします。

- 6 【**セレクション・セット作成**】 ページで、ノードをダブルクリックして開きます。

このノードを開くと、データベース名が表示されます。【**ファイルおよびファイルグループ**】 バックアップ・セーブセットの場合は、データベース・ノードを開き、個別のファイルおよびファイルグループを選択します。その他のバックアップ・タイプでは、さらにドリルダウンすると項目が表示されますが、これらの項目は**選択できません**。

- 7 リストア手順に含める利用可能なデータを選択します。

フル・バックアップおよび差分バックアップには、ファーム全体、個別の Web アプリケーション、または個別のコンテンツ・データベースをリストアするオプションがあります。フル・バックアップおよび差分バックアップの【**セレクション・セット作成**】 ページには、バックアップに含まれているすべての項目が表示されます。ただし、SharePoint PowerShell Cmdlets または STSADM は、すべての項目を細分化されたリストア・セレクションの対象にはできません。対応するチェック・ボックスが表示されない項目は、親ノードが選択されていると自動的にリストアされます。たとえば、【**共有検索インデックス**】は細分化されたリストアには使用できません。ただし、親である「**SharedService1**」がリストア対象に選択されるとリストアされます。フル・バックアップまたは差分バックアップのタブに表示される SharePoint オブジェクトのタイプを、次の表に示します。

アイコン	名前
	ファーム
	Webサービス、SSP、グローバル検索の設定、または検索サービス
	Webアプリケーション、ユーザー・プロファイル・アプリケーション、セッション状態の共有アプリケーション、共有アプリケーションの検索、または検索サービス・インスタンス
	設定、共有サービス、共有検索、またはコンテンツ・データベース

フル・バックアップと差分バックアップを使用して細分化されたリストアを実行する場合は、リストア対象の個別の項目のノードが選択されていることを確認します。たとえば、個別の Web アプリケーションをリストアする場合は、ツリーで利用可能な Web アプリケーションの名前に移動し、その Web アプリケーションのノードを選択します。適切に選択された場合、Web アプリケーション・ノードには、白の背景で大きい緑のチェックマークが付きます。

親ノードを選択しながら個別のサブ・ノードに赤い X を付けて除外しないでください。この組み合わせのために、リストア・ジョブが失敗することがあります。なぜなら、SharePoint PowerShell Cmdlets および STSADM では、すべてのサブ・ノードや子ノードをリストアしないと親ノードをリストアできないためです。

個別のサイト・コレクションのバックアップでは、バックアップに含まれているすべてのサイト・コレクションをリストアするか、サブセットのみをリストアするというオプションがあります。

## リストア・オプションの設定

【**セレクション・セット作成**】 ページで、【**プラグイン オプションの編集**】 をクリックして、以下のパラメータを設定します（これらのオプションは、すべての VSS バックアップ・タイプで利用できます）。

- 次のオプションは、フル・バックアップと差分バックアップに使用できます。

- **バックアップのみからファイルをリストアする**：選択したセーブセットのバックアップ・パッケージを指定した【一時ファイルのディレクトリ】にリストアして、高度なリストア・シナリオで使用する場合は、このオプションを選択します。このオプションを使用すると、プラグインは、ターゲット・ディレクトリにファイルをリストアし、それらをそのまま残します。プラグインは、ファイルを SharePoint Farm にはリストアしません。詳細は、「その他のリストア手順」を参照してください。
  - **SQL Server のユーザー名**：「DOMAIN\username」形式で、「sysadmin」サーバー・ロールを持つ SQL Server のユーザーを指定します。
  - **【パスワード】**：上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。
- 次のオプションは、個別のサイト・コレクションのバックアップに使用できます。
  - **バックアップのみからファイルをリストアする**：選択したセーブセットのバックアップ・パッケージを指定した【一時ファイルのディレクトリ】にリストアして、高度なリストア・シナリオで使用する場合は、このオプションを選択します。このオプションを使用すると、プラグインは、ターゲット・ディレクトリにファイルをリストアし、それらをそのまま残します。プラグインは、ファイルを SharePoint Farm にはリストアしません。詳細は、「その他のリストア手順」を参照してください。
  - **既存の上書き**：個別のサイト・コレクションのバックアップを同じまたは代替のサーバーまたはファームにリストアするときに、既存の設定を上書きする場合は、このオプションを選択します。このオプションがオフの場合、個別のサイト・コレクションはリストア先サーバーまたはファームに存在できません。それ以外の場合は、リストア・ジョブが失敗します。

## ジョブのファイナライズと実行

最終ステップには、[スケジュール]、[ソース・オプション]、および [詳細設定] ページの追加オプション設定、ジョブの実行、および [ジョブ・ステータス] と [ログ参照] ページからの進捗状況の監視が含まれています。これらのページとオプションは、すべての NetVault Backup プラグインに共通しています。詳しくは、『Quest NetVault Backup アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

- 1 設定を保存するには、[OK]、続いて【次へ】をクリックします。
- 2 デフォルト設定を使用しない場合は、【ジョブ名】に、ジョブの名前を指定します。  
進捗状況を監視する際にジョブを識別しやすくするため、具体的な名前を指定します。ジョブ名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。また、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内にするをお勧めします。
- 3 【クライアント指定】リストで、データをリストアするマシンを選択します。  
**i** | **ヒント**：【選択】をクリックして、【クライアント指定選択】ダイアログ・ボックスから適切なクライアントを検索、選択することもできます。
- 4 【スケジュール】、【ソース・オプション】、および【詳細設定】リストを使って、その他の必要なオプションを設定します。
- 5 【保存】または【保存 & 実行】の、どちらか適切な方をクリックします。

【ジョブ・ステータス】ページで進捗状況を監視したり、【ログ参照】ページでログを表示したりできます。詳しくは、『Quest NetVault Backup アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

- i** | **重要**：リストアに複数の項目を選択した場合、複数の SharePoint PowerShell Cmdlets または STSADM のリストアは、同じプラグインのリストア・ジョブで連続して実行されます。NetVault Backup のジョブ・ログを確認するとき、エラーまたは警告を検索するときはログ全体を確認してください。SharePoint PowerShell Cmdlets または STSADM のログの終わり近くの状態のみが、最後の SharePoint PowerShell Cmdlets または STSADM のリストアの状態を反映します。

# サービスの再起動

すべての SharePoint サービスと SharePoint Server サービスが開始されていることを、Windows の [コントロール・パネル] で確認します。サービス名の詳細については、「[SharePoint 2010、2013、2016 の用語](#)」を参照してください。

## 単一のフル・バックアップ、フル+差分のシーケンス、または個別のサイト・コレクションのバックアップのリストア

次のトピックでは、特定のタイプのバックアップをリストアする手順について詳細に説明します。「[SharePoint におけるバックアップのリストア](#)」に記載されている手順で、この情報を使用してください。

## 単一のファームのフル・バックアップのリストア

単一のフル・バックアップのリストアは、プラグインでリストア・シーケンスとして表示されます。そのため、一定の手順を実行して、単一のフル・バックアップをリストアし、そのリカバリされたデータを SharePoint で使用できるようにレンダリングする必要があります。

**i | 重要：**このトピックでは、単一のフル・バックアップをリカバリするための手順について説明します。この手順は、差分のリストア・シーケンスに関連するフル・バックアップのリカバリには適用されません。

- 1 [セクション・セット作成] ページで、リストアするオブジェクト（破損したファーム全体、個別の Web アプリケーション、または個別のサイト・コレクション）を選択します。  
詳細は、「[リストア対象データの選択](#)」を参照してください。
- 2 [セクション・セット作成] ページで、[プラグイン・オプションの編集] をクリックして、以下の手順を完了します。
  - [バックアップ・タイプ] のラベルが、「SP CMDLET FULL」または「STSADM FULL」であることを確認します。
  - [SQL Server のユーザー名] フィールドで、「DOMAIN\username」形式を使用して「sysadmin」サーバー・ロールを持つユーザー名を指定します。
  - [パスワード] フィールドで、上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。
- 3 設定を保存するには、[OK] をクリックし、[次へ] をクリックして、デフォルトを使用しない場合は [ジョブ名] を指定します。
- 4 [ターゲット・クライアント]、[スケジュール]、[ソース・オプション]、および [詳細設定] のリストに入力し、[保存 & 実行] をクリックします。

詳細は、「[ジョブのファイナライズと実行](#)」を参照してください。

ジョブが完了すると、NetVault Backup はリストア・プロセスを完了し、すべてのリストア済みデータは SharePoint にアクセス可能になります。



# ファームのフル+差分バックアップ・シーケンスのリストア

たとえば、毎週日曜日の午後 11 時にフル・バックアップが実行され、さらに月曜日から土曜日の午後 11 時に差分バックアップが実行されているとします。リカバリが火曜日に実行される場合、日曜日のフル・バックアップと、月曜日の差分バックアップがリストアされる必要があります。また、たとえば、木曜日にリカバリを実行する場合、日曜日のフル・バックアップと水曜日の差分バックアップをリストアする必要があります。

## フル・バックアップのリストア

- 1 **【セクション・セット作成】** ページでプラグインがインストールされているサーバーにアクセスし、利用可能な差分バックアップ・シーケンスの開始点になるフル・バックアップ・セーブセットを見つけます。
- 2 選択ツリーでバックアップ・セーブセットに移動し、リストアするオブジェクト（破損したファーム全体、個別の Web アプリケーション、または個別のサイト・コレクション）を選択します。
- 3 リストアのために選択されたその項目についてメモします。  
Quest は、セクション・セットを使用して、フル・バックアップと差分バックアップの両方で同じ項目が選択されていることを確認するようお勧めします。  
詳細は、「[リストア対象データの選択](#)」を参照してください。
- 4 **【セクション・セット作成】** ページで、**【プラグイン・オプションの編集】** をクリックして、以下の手順を完了します。
  - **【バックアップ・タイプ】** のラベルが、「SP CMDLET FULL」または「STSADM FULL」であることを確認します。
  - **【SQL Server のユーザー名】** フィールドで、「DOMAIN\username」形式を使用して「sysadmin」サーバー・ロールを持つユーザー名を指定します。
  - **【パスワード】** フィールドで、上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。
- 5 設定を保存するには、**【OK】** をクリックし、**【次へ】** をクリックして、デフォルトを使用しない場合は **【ジョブ名】** を指定します。
- 6 **【ターゲット・クライアント】**、**【スケジュール】**、**【ソース・オプション】**、および **【詳細設定】** のリストに入力し、**【保存 & 実行】** をクリックします。  
詳細は、「[ジョブのファイナライズと実行](#)」を参照してください。

## 利用可能な差分バックアップのリストア

元のフル・バックアップが正常にリストアされたら、次の手順を完了します。

- 1 **【セクション・セット作成】** ページで、選択ツリーを使用して、シーケンスの利用可能な差分バックアップに属するバックアップ・セーブセットに移動します。
- 2 このバックアップ・セーブセットを開き、フル・バックアップで選択された（フル・バックアップのリストア中に選択された）項目と *同じ項目* を選択します。  
Quest は、セクション・セットを使用して、フル・バックアップと差分バックアップの両方で同じ項目が選択されていることを確認するようお勧めします。
- 3 **【セクション・セット作成】** ページで、**【プラグイン・オプションの編集】** をクリックして、以下の手順を完了します。
  - **【バックアップ・タイプ】** のラベルが、「SP CMDLET DIFFERENTIAL」または「STSADM DIFFERENTIAL」であることを確認します。

- **[SQL Server のユーザー名]** フィールドで、「DOMAIN\username」形式を使用して「sysadmin」サーバー・ロールを持つユーザー名を指定します。
  - **[パスワード]** フィールドで、上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。
- 4 設定を保存するには、**[OK]** をクリックし、**[次へ]** をクリックして、デフォルトを使用しない場合は**[ジョブ名]** を指定します。
  - 5 **[ターゲット・クライアント]**、**[スケジュール]**、**[ソース・オプション]**、および **[詳細設定]** のリストに入力し、**[保存 & 実行]** をクリックします。

詳細は、「[ジョブのファイナライズと実行](#)」を参照してください。

ジョブが完了すると、NetVault Backup はリストア・プロセスを完了し、すべてのリストア済みデータは SharePoint にアクセス可能になります。

## 個別のサイト・コレクション・バックアップのリストア

- 1 Web アプリケーションおよびコンテンツ・データベースの項目に対して、「[前提条件の検証](#)」で説明されている手順を完了させます。
- 2 **[セクション・セット作成]** ページでプラグインがインストールされているサーバーにアクセスし、利用可能な個別のコレクション・サイトのバックアップを見つけます。
- 3 選択ツリーでバックアップ・セーブセットに移動し、リストアするオブジェクト（個別のサイト・コレクション）を選択します。

詳細は、「[リストア対象データの選択](#)」を参照してください。

- 4 **[セクション・セット作成]** ページで、**[プラグイン・オプションの編集]** をクリックして、以下の手順を完了します。
  - **[バックアップ・タイプ]** のラベルが、「SP CMDLET INDIVIDUAL SITE」または「STSADM INDIVIDUAL SITE」であることを確認します。
  - 既存の設定を上書きする場合は、**[既存の上書き]** チェック・ボックスをオンにします。
- 5 設定を保存するには、**[OK]** をクリックし、**[次へ]** をクリックして、デフォルトを使用しない場合は**[ジョブ名]** を指定します。
- 6 **[ターゲット・クライアント]**、**[スケジュール]**、**[ソース・オプション]**、および **[詳細設定]** のリストに入力し、**[保存 & 実行]** をクリックします。

詳細は、「[ジョブのファイナライズと実行](#)」を参照してください。

ジョブが完了すると、NetVault Backup はリストア・プロセスを完了し、すべてのリストア済みデータは SharePoint にアクセス可能になります。

## その他のリストア手順

このトピックでは、プラグインで実行することができるその他の（オプション）リストア操作について説明します。これらの操作のうち一般的なタスクに関連するものが、最初に説明されています。

- [一般的なタスク](#)
- [同一のサーバーまたはファームへのリストア](#)
- [代替サーバーまたはファームへのリストア](#)



**i** | **メモ**：このトピックでは、STSADM コマンドを使用して一部のタスクを実行しますが、同等の SharePoint PowerShell Cmdlets も使用できます。詳しくは、<https://docs.microsoft.com/en-us/powershell/module/sharepoint-server/?view=sharepoint-ps> を参照してください。

## 一般的なタスク

次のタスクは、利用可能な場合に参照されます。次のタスクが含まれます。

- SharePoint Search サービスの停止
- 検索インスタンス・データベースの削除
- SharePoint Search サービスの再起動
- 新しい導入での共有サービスの削除
- Web アプリケーションの再作成
- コンテンツ・データベースの削除
- ソリューションの再導入
- 代替アクセス・マッピングの再作成（オプション）
- タイマー・ジョブの再起動
- 機能の再有効化
- IIS の再起動
- SharePoint サーバー管理の Web サイトの作成
- SharePoint Search サービスの設定
- SharePoint Search サービスの設定
- インデックスのスケジュールの再設定
- サイト・コレクションの管理者がソースおよび代替のサーバーで一致することの確認
- 代替サーバーまたはファームへの SSP 認証情報の追加
- 共有サービスの権限が正しい管理者を参照していることの確認
- ビジネス・カタログの権限が正しい管理者を参照していることの確認
- 検索設定の権限のあるページの検証
- 信頼できるファイルの場所の検証

## SharePoint Search サービスの停止

SharePoint Search サービスを停止するには、次の STSADM コマンドを入力します。

```
stsadm -o spsearch -action fullcrawlstop
```

```
stsadm -o spsearch -action stop -f
```

## 検索インスタンス・データベースの削除

SharePoint Search サービスの停止では、検索インスタンス・データベースは削除されません。**SQL Server Management Studio** を使用してこのデータベースを削除して、リストア中の更新の競合を回避します。

- 1 SQL Server インスタンスが存在するサーバーで、**SQL Server Management Studio** を開きます。

- 2 [オブジェクト・エクスプローラ] で [データベース] ノードに移動し、[検索インスタンス・データベース] を右クリックして [削除] を選択します。
- 3 [オブジェクトの削除] ダイアログ・ボックスで、[既存の接続を閉じる] を選択し [OK] をクリックします。

## SharePoint Searchサービスの再起動

SharePoint Search サービスを再起動します。サービス名の詳細については、「[SharePoint 2010、2013、2016 の用語](#)」を参照してください。

- 1 **SharePoint サーバー管理**を開き、[操作] タブを選択します。
- 2 [トポロジとサービス] セクションで、[サーバー上のサービス] をクリックします。
- 3 [サーバー] フィールドで、[検索インデックス] サービスがインストールされているサーバーを選択します。
- 4 [アクション] 列で、[スタート] オプションをクリックします。
- 5 SharePoint Searchサービスの設定を完了します。

[データベース・サーバー] および [データベース名] が、破損した SharePoint Search データベースのデータベース・サーバーおよびデータベース名と一致していることを確認します。また、[インデックスのスケジュール] の [X分ごと] オプションが選択されていないことを確認して、リストア中に更新の競合がないことを確認します。

SharePoint Search データベースは、SharePoint Search データベースのリストア手順で使用されるバックアップ・ジョブの NetVault Backup のログで詳しく説明されています。たとえば、バックアップ・ジョブの NetVault Backup のログが SharePoint の次のツリーに含まれている場合、[データベース名] は次のようになります。WSS\_Search\_BKB\_APM\_PM.

```
Farm\  
  [SharePoint_Config_20df73ac-d2b0-4c99-a919-b853626bae80]\  
  Windows SharePoint Services Web Application\  
    SharePoint - 2073\  
      WSS_Content_PM\  
    SharePoint - 80\  
      WSS_Content\  
  [WSS_Administration]\  
  [Web Application]\  
    SharePoint_AdminContent_feb7e07b-aeb4-4403-a5d4-a78fe0f90b0e  
  SharedServices1\  
    [SharePoint - 36448]\  
      SharedServicesContent_96a5c320-6b44-4daa-a7ar-1a43e1e3a3a2\  
    [SharedServices1_DB_c99ef411-87c1-4d91-bea6-dde5b1acbb16]\  
    [UserProfileApplication]\  
    [SessionStateSharedApplication]\  
    [Shared Search Index]\  
      [SharedServices1_Search_DB_9461bb96-b54b-4368-bd42-826f2b03d837]\  
  Global Search Settings\  
  Windows SharePoint Services Search\  
    [Search instance]\  
      [WSS_Search_BKB_APM_PM]\
```

## 新しい導入での共有サービスの削除

新しくインストールされた導入で、デフォルトの SSP (**SharedServices1**) を削除します。

- 1 **SharePoint サーバー管理**を開き、[ナビゲーション] パネルのメニューから **[共有サービス管理]** を選択します。
- 2 **[SharedServices1]** の下にリストされているWebアプリケーションをメモします。
- 3 **[アプリケーション管理]** ページで、**[SharePoint Webアプリケーション管理]** セクションの **[Webアプリケーションの削除]** をクリックします。
- 4 **[コンテンツ・データベースを削除する]** および **[IIS Webサイト]** を **[はい]** に**ステップ2**で設定するように、「**SharedServices1**」SSPに関連付けられている両方のWebアプリケーションを削除します。
- 5 コマンド・プロンプトで、STSADMを使用して「**SharedServices1**」SSPを削除するには、次のコマンドを入力します。

```
stsadm -o deletessp -title SharedServices1 -deletedatabases
```

**i** **重要**：新しくインストールされた導入のデフォルトの共有サービス・エントリが削除されていない場合、次の手順で共有検索インデックスをリストアしようとする、リストア・ジョブが応答を停止します。「**進行状況：[共有検索インデックス] が90%完了しました。**」

## Webアプリケーションの再作成

リストアを実行する前に、ファームのすべての Web アプリケーションを再作成します。この手順では、各 Web アプリケーションに関連付けられているタイマー・ジョブが作成されていることを確認します。

- 1 **SharePoint サーバー管理**を開き、**[アプリケーション管理]** タブを選択します。
- 2 **[SharePoint Webアプリケーション管理]** セクションで、**[Webアプリケーションを作成または拡張]** をクリックします。
- 3 **[SharePoint Webアプリケーションの追加]** セクションで、**[新しいWebアプリケーションを作成する]** をクリックします。
- 4 新しいWebアプリケーションの設定を入力します。

**[IIS Web サイト]** と **[データベース名]** が、ソースである SharePoint 導入に存在する Web アプリケーションと一致することを確認します。

Web アプリケーションと関連するデータベース名は、ディザスタ・リカバリで使用されるバックアップ・ジョブの NetVault Backup のログで詳しく説明されています。たとえば、バックアップ・ジョブの NetVault Backup のログが SharePoint の次のツリーに含まれている場合、次の Web アプリケーションが作成される必要があります。

- Web アプリケーション名：SharePoint - 2073
  - データベース名：WSS\_Content\_PM
- Web アプリケーション名：SharePoint - 80
  - データベース名：WSS\_Content

```
Farm\  
  [SharePoint_Config_20df73ac-d2b0-4c99-a919-b853626bae80]\  
  Windows SharePoint Services Web Application\  
    SharePoint - 2073\  
      WSS_Content_PM\  
    SharePoint - 80\  
      WSS_Content\  
  [WSS_Administration]\  
  [Web Application]\  
    SharePoint_AdminContent_feb7e07b-aeb4-4403-a5d4-  
    a78fe0f90b0e  
  SharedServices1\  
    [SharePoint - 36448]\  
  
```

```
SharedServicesContent_96a5c320-6b44-4daa-a7ar-1a43e1e3a3a2\  
[SharedServices1_DB_c99ef411-87c1-4d91-bea6-dde5b1acbb16]\  
[UserProfileApplication]\  
[SessionStateSharedApplication]\  
[Shared Search Index]\  
[SharedServices1_Search_DB_9461bb96-b54b-4368-bd42-  
826f2b03d837]\  
Global Search Settings\  
Windows SharePoint Services Search\  
[Search instance]\  
[WSS_Search_BKB_APM_PM]\  

```

詳しくは、<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=102634&clcid=0x409> を参照してください。

## コンテンツ・データベースの削除

新しいファームまたはサーバーのコンテンツ・データベースの名前が、ソースのファームまたはサーバーのコンテンツ・データベースの名前と確実に等しくなるように、リストアされた Web アプリケーションのすべてのコンテンツ・データベースが **SQL Server Management Studio** によって削除されたことを確認します。

- 1 SQL Server インスタンスが存在するサーバーで、**SQL Server Management Studio** を開きます。
- 2 **[オブジェクト・エクスプローラ]** で **[データベース]** ノードに移動し、削除するデータベースを右クリックして **[削除]** を選択します。
- 3 **[オブジェクトの削除]** ダイアログ・ボックスで、**[既存の接続を閉じる]** を選択し **[OK]** をクリックします。

## ソリューションの再導入

再導入するソリューション・パッケージがある場合は、STSADM の **[deploysolution]** オプションを使用します。次の例では、**[-allcontenturl]** パラメータを使用して、ファーム内のすべてのサイト・コレクションにソリューションを導入します。

```
stsadm -o deploysolution -name <mysolution.wsp> -allcontenturls
```

ソリューション導入の追加情報については、次を参照してください。  
<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=102644&clcid=0x409>

## 代替アクセス・マッピングの再作成（オプション）

参照として、NetVault Backup Plug-in for *FileSystem* でリストアされた代替アクセス・マッピングのテキスト・ファイルを使用してください。

- 1 **SharePoint サーバー管理**を開き、**[操作]** タブを選択します。
- 2 **[グローバル構成]** セクションで、**[代替アクセス・マッピング]** をクリックします。
- 3 テキスト・ファイルを参照し、マッピングを再作成します。

## タイマー・ジョブの再起動

Web アプリケーションのバックアップをリストアすると一部のタイマー・ジョブが開始されないため、次の手順を使用してジョブを開始します。詳しくは、<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=102639&clcid=0x409> を参照してください。

- 1 新しく作成されたファームに公開ポータル・サイト・コレクションを作成すると、次のタイマー・ジョブ定義が自動的に作成されます。

- スケジュール済み承認 (ApprovalJobDefinition)
  - スケジュール済みページ・レビュー (NotificationJobDefinition)
  - ページ・ジョブ定義のバリエーションの反映 (PropagateVariationPageJobDefinition)
  - サイト・ジョブ定義のバリエーションの反映 (SpawnSitesJobDefinition)
  - スケジュール済み非公開 (UnpublishJobDefinition)
- 2 作成した一時的な公開ポータル・サイト・コレクションを削除します。タイマー・ジョブ定義はアクティブなままです。
  - 3 各Webアプリケーションをリストアした後で、次のSTSADMコマンドを使用して、バルク・ワークフロー・タスク処理ジョブ (BulkWorkflowWIJD) を開始します。

```
stsadm -o setbulkworkflowtaskprocessingschedule -schedule <recurrenceString>
```

- 4 各Webアプリケーションをリストアした後で、アプリケーション・サーバーで次のSTSADMコマンドを使用して、検索とプロセスのジョブ (SearchAndProcessWIJD) を開始します。

```
stsadm -o setsearchandprocessschedule -schedule <recurrenceString>
```

これらのコマンドの詳細については、「<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc263384.aspx>」を参照してください。

- 5 すべてのWebアプリケーションについて、**ステップ3**と**ステップ4**を繰り返します。

## 機能の再有効化

ソリューションに含まれている機能を有効にする必要がある場合は、適切なレベル (Web アプリケーション、サイト・コレクション、または Web サイト) で機能を有効にします。機能を有効にするには、コマンド・プロンプトで次の STSADM コマンドを実行し、Web アプリケーション、サイト・コレクション、またはサイトの URL を指定します。

```
stsadm -o activatefeature -name
<folderInFEATURESdirectoryThatContainsFeature.xmlFile> -url
http://Server/Site/Subsite
```

## IISの再起動

IIS に最新の設定があることを確認するには、コマンド・プロンプトで次のコマンドを実行して IIS を再起動します。

```
iisreset /noforce
```

## SharePointサーバー管理のWebサイトの作成

SharePoint サーバー管理の Web サイトは、アプリケーション・サーバーなど、SharePoint をインストールする最初のサーバーにデフォルトでインストールされます。

- 1 アプリケーション・サーバーで、**[SharePoint 製品とテクノロジー構成ウィザード]** を開始します。

- 2 **[SharePoint製品とテクノロジーへようこそ]** ページで、**[次へ]** をクリックします。
- 3 設定中に一部のサービスを再起動またはリセットする必要があることを通知するダイアログ・ボックスで、**[はい]** をクリックします。
- 4 **[サーバー・ファームへの接続]** ページで、**[いいえ、新しいサーバー・ファームを作成します]** を選択して **[次へ]** をクリックします。
- 5 **[設定データベース設定の指定]** ダイアログ・ボックスで、**[データベース・サーバー]** ボックスに、SQL Serverを実行しているコンピュータの名前を入力します。
- 6 デフォルト (**SharePoint\_Config**) を使用しない場合は、**[データベース名]** に、設定データベースの名前を入力します。
- 7 **[ユーザー名]** ボックスで、「**DOMAIN\username**」の形式でServerのファーム・アカウントのユーザー名を入力します。
- 8 **[パスワード]** ボックスにそのユーザーのパスワードを入力し、**[次へ]** をクリックします。
- 9 SharePointサーバー管理のWebアプリケーションで特定のポートを使用する場合は、**[SharePointサーバー管理Webアプリケーションの設定]** ページで **[ポート番号を指定します]** チェック・ボックスをオンにして、ポート番号を入力します。
- 10 以下のいずれかを実行します。
  - NTLM 認証 (デフォルト) を使用する場合は、**[次へ]** をクリックします。
  - Kerberos 認証を使用する場合は、**[ネゴシエート (Kerberos)]** をクリックして、**[次へ]** をクリックします。
- 11 **[SharePoint製品とテクノロジーの設定ウィザードの完了]** ページで、**[次へ]** をクリックします。
- 12 **[正常に設定されました]** ページで、**[完了]** をクリックします。  
**[サーバー管理]** のホームページが開きます。

## SharePoint Searchサービスの設定

**SharePoint Search** サービスをアプリケーション・サーバーで開始するには、次の手順を完了します。サービス名の詳細については、「[SharePoint 2010、2013、2016 の用語](#)」を参照してください。

- 1 **SharePoint サーバー管理**を開き、**[操作]** タブを選択します。
- 2 **[トポロジとサービス]** セクションで、**[サーバー上のサービス]** をクリックします。
- 3 **[サーバー]** リストで、インデックス・サーバーとして設定するサーバーを選択します。  
 また、このサーバーをクエリ・サーバーとして選択して設定することもできます。
- 4 **[サーバーのサービス]** ページで、**[SharePoint Search]** の横にある **[開始]** をクリックします。
- 5 **[コンテンツのインデックス作成にこのサーバーを使用する]** チェック・ボックスをオンにします。  
 このステップによってページが拡張され、**[インデックス・サーバーのデフォルトのファイルの場所]**、**[インデクサ・パフォーマンス]**、および **[Web フロント・エンドとクロール]** セクションが追加されます。
- 6 このサーバーを使用して検索クエリを処理する場合は、**[検索クエリの処理にこのサーバーを使用する]** チェック・ボックスをオンにします。  
 このステップによってページが拡張され、**[クエリ・サーバーのインデックス・ファイルの場所]** セクションが追加されます。
- 7 **[連絡先の電子メール・アドレス]** セクションには、外部のサイトがこちらのインデックス・サーバーでクロールしたときに問題が発生した場合に、外部サイト管理者がこちらの組織に連絡するために使用する電子メール・アドレスを入力します。

## SharePoint Searchサービスの設定

SharePoint Search サービスをアプリケーション・サーバーで開始するには、次の手順を完了します。サービス名の詳細については、「[SharePoint 2010、2013、2016 の用語](#)」を参照してください。

- 1 **SharePoint サーバー管理**を開き、**[操作]** タブを選択します。
- 2 **[トポロジとサービス]** セクションで、**[サーバー上のサービス]** をクリックします。
- 3 **[サーバー]** リストで、アプリケーション・サーバーを選択します。
- 4 **[サーバーのサービス]** ページで、**[SharePoint Search]** の横にある**[開始]** をクリックします。サービス名の詳細については、「[SharePoint 2010、2013、2016 の用語](#)」を参照してください。
- 5 **[サービス・アカウント]** セクションで、**SharePoint Search**のサービス・アカウントを実行するユーザー・アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
- 6 **[コンテンツ・アクセス・アカウント]** セクションで、検索サービスがコンテンツを検索するために使用するユーザー・アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。  
このアカウントには、検索するすべてのコンテンツへの読み取りアクセス権が必要です。認証情報を指定しない場合は、検索サービスに使用されるアカウントと同じアカウントが使用されます。
- 7 **[インデックスのスケジュール]** セクションで、デフォルトの設定を確認するか、コンテンツを検索するときに検索サービスが使用するスケジュールを指定します。  
Quest は、**[X 分ごと]** オプションをオフにして、リストア中に更新の競合がないようにすることをお勧めします。
- 8 すべての設定を設定したら、**[スタート]** をクリックします。

## インデックスのスケジュールの再設定

インデックスのスケジュールを適切な間隔に戻すことができます。

- 1 **SharePoint サーバー管理**を開き、**[操作]** タブを選択します。
- 2 **[トポロジとサービス]** セクションで、**[サーバー上のサービス]** をクリックします。
- 3 **[サーバー]** フィールドで、**[検索インデックス]** サービスがインストールされているサーバーを選択します。
- 4 **[サーバーのサービス]** 列で、「**Windows SharePoint Services Search**」リンクをクリックします。
- 5 **[インデックスのスケジュール]** に利用可能なオプションを選択して、**[OK]** をクリックします。

## サイト・コレクションの管理者がソースおよび代替のサーバーで一致することの確認

代替サーバーまたはファームへのリストア中に、SharePoint PowerShell Cmdlets または STSADM はソース・サーバーまたはファームのサイト・コレクション管理者を保守します。ソース・サーバー・ファームのサイト・コレクションの管理者が、代替サーバーまたはファームのサイト・コレクションの管理者と異なる場合、代替サーバーまたはファームにリストアされたすべてのサイト・コレクションでサイト・コレクションの管理者を更新します。そうしないと、ブラウザからサイト・コレクションにアクセスしたときに、ユーザーには不正なユーザーというエラーが表示されます。

- 1 代替ファームで、**SharePoint サーバー管理**を開き、**[アプリケーション管理]** タブを選択します。
- 2 **[SharePointサイトの管理]** セクションで、**[サイト・コレクションの管理者]** をクリックします。
- 3 **[サイト・コレクション]** フィールドで、**[サイト・コレクション]** の名前を選択します。



- 4 代替サーバーまたはファームに利用可能なSharePoint管理者を反映するには、**[プライマリ・サイト・コレクションの管理者]** および **[セカンダリ・サイト・コレクションの管理者]** を更新します。
- 5 リストアされた各Webアプリケーションの各サイト・コレクションについて、**ステップ2**および**ステップ3**を繰り返します。

## 代替サーバーまたはファームへのSSP認証情報の追加

リストア後に、代替サーバーまたはファームに SSP サービス認証情報が追加されていることを確認します。

- 1 **SharePoint サーバー管理**を開き、**[ナビゲーション]** パネルのメニューから **[共有サービス管理]** を選択します。
- 2 **[このファームの共有サービスの管理]** ページで、代替サーバーにリストアされた **[共有サービス・プロバイダ]** を右クリックして、**[プロパティの編集]** を選択します。
- 3 **[SSPサービス認証情報]** で、「**DOMAIN\username**」の形式で代替サーバーのローカル管理者のユーザー名を入力します。
- 4 上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。

## 共有サービスの権限が正しい管理者を参照していることの確認

**[共有サービスの権限]** が、代替サーバーのローカル管理者または代替ファームのドメイン管理者を参照していることを確認します。

- 1 **SharePoint サーバー管理**を開き、**[ナビゲーション]** パネルのメニューから **[共有サービス]** の名前を選択します。
- 2 **[ユーザー・プロファイルと個人用サイト]** セクションで、**[個人設定サービスの権限]** をクリックします。
- 3 **[共有サービスの権限]** ページで、**[ユーザー/グループの追加]** をクリックします。
- 4 「**DOMAIN\username**」形式で、代替サーバーのローカル管理者のユーザー名を入力します。
- 5 次の権限を追加するには、それらを選択して **[保存]** をクリックします。
  - 分析の管理
  - 視聴者の管理
  - ユーザー・プロファイルの管理
  - 個人用機能
  - 個人用サイト
  - 権限の設定
- 6 ソース・サーバーからユーザーを選択し、**[選択したユーザーの削除]** をクリックします

## ビジネス・カタログの権限が正しい管理者を参照していることの確認

**[ビジネス・カタログの権限]** が、代替サーバーのローカル管理者または代替ファームのドメイン管理者を参照していることを確認します。

- 1 **SharePoint サーバー管理**を開き、**[ナビゲーション]** パネルのメニューから **[共有サービス]** の名前を選択します。



- 2 [ユーザー・プロフィールと個人用サイト] セクションで、[ビジネス・データ・カタログ] の権限をクリックします。
- 3 [権限の管理] の [ビジネス・データ・カタログ] ページで、[ユーザー/グループの追加] をクリックします。
- 4 「DOMAIN\username」形式で、代替サーバーのローカル管理者のユーザー名を入力します。
- 5 次の権限を追加するには、それらを選択して [保存] をクリックします。
  - 編集
  - 実行
  - クライアントで選択可能
  - 権限の設定

## 検索設定の権限のあるページの検証

[検索設定] の [権限のあるページ] が、代替サーバーまたはファームを参照していることを確認します。

- 1 **SharePoint サーバー管理**を開き、[ナビゲーション] パネルのメニューから [共有サービス管理] を選択します。
- 2 [検索] セクションで、[検索設定] をクリックします。
- 3 [権限のあるページ] セクションで、[権限のあるページを指定する] を選択します。
- 4 すべての権限のあるページが代替サーバーホスト名または代替ファームのサーバーを参照していることを確認して、[OK] をクリックします。

## 信頼できるファイルの場所の検証

[Excel Services の信頼されているファイルの場所] の [信頼できるファイル] の場所が、代替サーバーを参照していることを確認します。

- 1 **SharePoint サーバー管理**を開き、[ナビゲーション] パネルのメニューから [共有サービス] の名前を選択します。
- 2 [Excel Servicesの設定] セクションで、[信頼されたファイルの場所] をクリックします。
- 3 [アドレス] フィールドが、この信頼できる場所の完全なWindows SharePoint Servicesの場所、ネットワーク・ファイル共有、またはWebフォルダ・アドレスを参照していることを確認し、[OK] をクリックします。

## 同一のサーバーまたはファームへのリストア

このトピックでは、以下の手順について説明します。

- 同一のサーバーまたはファームへの SharePoint Search のリストア
- 単一サーバーへの導入のディザスタ・リカバリを同じサーバーに実行する
- 小規模ファームまたはスケールアウトされたファームのディザスタ・リカバリを同じファームに実行する

## 同一のサーバーまたはファームへのSharePoint Searchのリストア

次の手順では、**SharePoint Search** サービスを削除または破損した場合に、同じサーバーにリストアする方法を説明します。サービス名の詳細については、「[SharePoint 2010、2013、2016 の用語](#)」を参照してください。

以下の要件を満たしていることを確認します。

- **SharePoint Search サービスが停止した** : SharePoint Search サービスを停止します。詳細は、「[SharePoint Search サービスの停止](#)」を参照してください。
- **検索インスタンス・データベースが削除された** : 検索インスタンス・データベースを削除します。詳細は、「[検索インスタンス・データベースの削除](#)」を参照してください。
- **SharePoint Search サービスを再起動した** : SharePoint Search サービスを再起動します。詳細は、「[SharePoint Search サービスの再起動](#)」を参照してください。

## リストアの開始

- **フル・バックアップのリストア** : 少なくとも、SharePoint Search データベースをリストアするには、フル・バックアップのリストアが必要です。
  - 1 **[セレクション・セット作成]** ページで、最後の **[フル・バックアップ]** のセーブセットを選択します。
  - 2 **[SharePoint Search]** ノードを選択します。サービス名の詳細については、「[SharePoint 2010、2013、2016の用語](#)」を参照してください。
  - 3 **[セレクション・セット作成]** ページで、**[プラグイン・オプションの編集]** をクリックして、以下の手順を完了します。
    - **[バックアップ・タイプ]** のラベルが、「**SP CMDLET FULL**」または「**STSADM FULL**」であることを確認します。
    - **[SQL Server のユーザー名]** フィールドで、「**DOMAIN\username**」形式を使用して「**sysadmin**」サーバー・ロールを持つユーザー名を指定します。
    - **[パスワード]** フィールドで、上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。
  - 4 設定を保存するには、**[OK]** をクリックし、**[次へ]** をクリックして、デフォルトを使用しない場合は **[ジョブ名]** を指定します。
  - 5 **[ターゲット・クライアント]**、**[スケジュール]**、**[ソース・オプション]**、および **[詳細設定]** のリストに入力し、**[保存 & 実行]** をクリックします。

プラグインは、SharePoint Search の完全なリストアを実行します。
- **差分バックアップのリストア (オプション)** : バックアップ戦略に差分バックアップが含まれている場合は、使用可能な最後の差分バックアップをリストアします。
  - 1 **[セレクション・セット作成]** ページで、最後の **[差分バックアップ]** のセーブセットを選択します。
  - 2 **[SharePoint Search]** ノードを選択します。サービス名の詳細については、「[SharePoint 2010、2013、2016の用語](#)」を参照してください。

- 3 **[セレクション・セット作成]** ページで、**[プラグイン・オプションの編集]** をクリックして、以下の手順を完了します。
  - **[バックアップ・タイプ]** のラベルが、「**SP CMDLET DIFFERENTIAL**」または「**STSADM DIFFERENTIAL**」であることを確認します。
  - **[SQL Server のユーザー名]** フィールドで、「**DOMAIN\username**」形式を使用して「**sysadmin**」サーバー・ロールを持つユーザー名を指定します。
  - **[パスワード]** フィールドで、上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。
- 4 設定を保存するには、**[OK]** をクリックし、**[次へ]** をクリックして、デフォルトを使用しない場合は **[ジョブ名]** を指定します。
- 5 **[ターゲット・クライアント]**、**[スケジュール]**、**[ソース・オプション]**、および **[詳細設定]** のリストに入力し、**[保存 & 実行]** をクリックします。

プラグインは、SharePoint Search の完全なリストアを実行します。

- **インデックスのスケジュールの再設定**：インデックスのスケジュールを適切な間隔に戻します。詳細は、「[インデックスのスケジュールの再設定](#)」を参照してください。

## 単一サーバーへの導入のディザスタ・リカバリを同じサーバーに実行する

単一サーバーへの導入でのディザスタ・リカバリには、ファームレベル障害（SharePoint SQL Server インスタンス、アプリケーション・サーバー、および Web サーバーを格納するサーバー全体の損失）の後の、SharePoint の導入全体のリストアとリカバリが含まれます。ディザスタ・リカバリを実行するには、少なくとも 1 つのフル・バックアップを含む最小のバックアップ・セットが必要です。

以下の手順では、単一サーバーへの導入と同じサーバーにディザスタ・リカバリを実行する方法を詳しく説明します。この手順は、完全なメディア障害が発生し、損傷したホストを同じ設定で再構築するか、元のホストの設定（ホスト名を含む）を模倣して新しいサーバーを設定する場合に使用できます。

### 前提条件

以下の要件を満たしていることを確認します。

- **SharePoint Server がインストールされている**：損傷したサーバーに存在したものと同一バージョンおよびエディションの SharePoint ソフトウェアをシステムにインストールします。この手順では、コンピュータが Web サーバーとして動作するようにインターネット・インフォメーション・サービス (IIS) をインストールおよび設定し、Microsoft.NET Framework バージョン 3.0 をインストールし、ASP.NET 2.0 を有効にします。
  - ❗ **重要**：単一サーバーへの導入では、SharePoint ソフトウェアの基本的なインストール（無料または拡張バージョン）が、これらの手順で想定されます。
- **サービス・パックがインストールされている**：損傷したサーバーに以前インストールされていた Windows Server および SharePoint と同じサービス・パックをインストールします。WSS には最低でも SP1 が必要です。
- **NetVault Backup ソフトウェアと Plug-in for SharePoint がインストールされていること**：損傷したサーバーにもともと存在したものと同一バージョンの NetVault Backup と本プラグインをインストールし、同じように設定する必要があります。
- **フル・バックアップとオプションの差分バックアップが使用可能である**：利用可能な場合は、最新のフル・バックアップと差分バックアップがあることを確認してください。
- **Plug-in for FileSystem による追加項目のバックアップが使用可能である**：次の項目のバックアップが使用可能であることを確認してください。詳細については、「[NetVault Backup および Plug-in for FileSystem を使用して保護する追加アイテム](#)」を参照してください。

- カスタマイズ
- 代替アクセス・マッピング
- SharePoint Farm の設定
- **新しい導入での共有サービスの削除**：新しくインストールされた導入で、デフォルトの SSP (SharedServices1) を削除します。詳細は、「[新しい導入での共有サービスの削除](#)」を参照してください。
- **Web アプリケーションの作成**：リストアを実行する前に、ファームのすべての Web アプリケーションを再作成します。この手順では、各 Web アプリケーションに関連付けられているタイマー・ジョブが作成されていることを確認します。詳細は、「[Web アプリケーションの再作成](#)」を参照してください。
- **SQL Server Express Data ディレクトリが存在することの確認**：破損しているサーバーで、SQL Server Express Data ディレクトリのデフォルト・ディレクトリ以外のディレクトリが使用されている場合は、このディレクトリ構造が新たにインストールされた導入に存在していることを確認してください。
  - ❗ **重要**：新しくインストールされた導入に SQL Server Express Data ディレクトリが存在しない場合は、リストア・ジョブが次のエラーを参照して失敗します。ファイル"<Directory\FileName>"のディレクトリ検索はオペレーティング・システム・エラー 3 で失敗しました。(指定されたパスが見つかりません)。  
エラー・メッセージで参照されているディレクトリ構造を再作成し、リストア・ジョブを再び実行します。

## ディザスタ・リカバリの手順

ディザスタ・リカバリについて詳しくは、<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=102839&clcid=0x409> を参照してください。

- **フル・バックアップのリストア**：少なくとも、リカバリにはフル・バックアップのリストアが必要です。
  - 1 [セクション・セット作成] ページで、最後の [フル・バックアップ] のセーブセットを選択します。
  - 2 [ファーム] ノードを選択します。
  - 3 [セクション・セット作成] ページで、[プラグイン・オプションの編集] をクリックして、以下の手順を完了します。
    - [バックアップ・タイプ] のラベルが、「SP CMDLET FULL」または「STSADM FULL」であることを確認します。
    - [SQL Server のユーザー名] フィールドで、「DOMAIN\username」形式を使用して「sysadmin」サーバー・ロールを持つユーザー名を指定します。
    - [パスワード] フィールドで、上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。
 プラグインは、新しくインストールされた導入への SharePoint Farm のフル・リストアを実行します。
- **差分バックアップのリストア (オプション)**：バックアップ戦略に差分バックアップが含まれている場合は、使用可能な最後の差分バックアップをリストアします。
  - 1 [セクション・セット作成] ページで、最後の [差分バックアップ] のセーブセットを選択します。
  - 2 [ファーム] ノードを選択します。
  - 3 [セクション・セット作成] ページで、[プラグイン・オプションの編集] をクリックして、以下の手順を完了します。
    - [バックアップ・タイプ] のラベルが、「SP CMDLET DIFFERENTIAL」または「STSADM DIFFERENTIAL」であることを確認します。

- **[SQL Server のユーザー名]** フィールドで、「**DOMAIN\username**」形式を使用して「**sysadmin**」サーバー・ロールを持つユーザー名を指定します。
  - **[パスワード]** フィールドで、上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。
- 4 設定を保存するには、**[OK]**をクリックし、**[次へ]**をクリックして、デフォルトを使用しない場合は**[ジョブ名]**を指定します。
- 5 **[ターゲット・クライアント]**、**[スケジュール]**、**[ソース・オプション]**、および**[詳細設定]**のリストに入力し、**[保存 & 実行]**をクリックします。

プラグインは、新しくインストールされた導入へのSharePoint Farmの差分リストアを実行します。

## リカバリ後の手順

- **ソリューションの再導入**：再導入するソリューション・パッケージがある場合は、STSADM の **[deploysolution]** オプションを使用します。詳細は、「**ソリューションの再導入**」を参照してください。
- **パッケージ化されていないカスタマイズと代替アクセス・マッピングのリストア**：Plug-in for *FileSystem* を使用して、パッケージ化されていないカスタマイズとマッピングをリストアします。詳細については、「**代替アクセス・マッピング**」および「**カスタマイズ**」を参照してください。
- **代替アクセス・マッピングの再作成**（オプション）：代替アクセス・マッピングのテキスト・ファイルを使用して、マッピングを再作成します。詳細は、「**代替アクセス・マッピングの再作成（オプション）**」を参照してください。
- **タイマー・ジョブの再起動**：Web アプリケーションのバックアップをリストアすると、一部のタイマー・ジョブが開始されません。詳細は、「**タイマー・ジョブの再起動**」を参照してください。
- **機能の再有効化**：ソリューションに含まれている機能を有効にする必要がある場合は、適切なレベル（Web アプリケーション、サイト・コレクション、または Web サイト）で機能を有効にします。詳細は、「**機能の再有効化**」を参照してください。
- **IIS の再起動**：IIS の設定が最新であることを確認するには、IIS を再起動します。詳細は、「**IIS の再起動**」を参照してください。

## 小規模ファームまたはスケールアウトされたファームのディザスタ・リカバリを同じファームに実行する

小規模ファームまたはスケールアウトされたファームへの導入でのディザスタ・リカバリには、ファームレベル障害、SharePoint SQL Server インスタンス、アプリケーション・サーバー、および Web サーバーを格納するサーバーの損失)の後の、SharePoint の導入全体のリストアとリカバリが含まれます。ディザスタ・リカバリを実行するには、少なくとも 1 つのフル・バックアップを含む最小のバックアップ・セットが必要です。

以下の手順では、損傷した SharePoint の導入が存在したファームにディザスタ・リカバリを実行する方法を詳しく説明します。この手順は、完全なメディア障害が発生し、損傷したホストを同じ設定で再構築するか、元のホストの設定（ホスト名を含む）を模倣して新しいサーバーを設定する場合に使用できます。

### 前提条件

以下の要件を満たしていることを確認します。

- **SharePoint Server がインストールされている**：損傷したファームに存在したものと同一バージョンおよびエディションの SharePoint ソフトウェアを、小規模ファームを構成するシステムにインストールします。この手順には、ファーム内の各サーバーに次のソフトウェアをインストールおよび設定する手順が含まれます。
  - **データベース・サーバー**
    - SQL Server ソフトウェアおよびアップデート
  - **アプリケーション・サーバー**

- .Net Framework 3.0
- フロント・エンド Web サーバー
  - IIS
  - .Net Framework 3.0
  - APS.NET

**i | 重要：**小規模およびスケールアウトされたファームの導入では、SharePointソフトウェアの高度なインストール（無料または拡張バージョン）が、これらの手順で想定されます。

- **サービス・パックがインストールされている：** 損傷したサーバーに以前インストールされていた Windows Server および SharePoint と同じサービス・パックをインストールします。WSS には最低でも SP1 が必要です。
- **SharePoint サーバー管理の Web サイトが作成されている：** SharePoint サーバー管理の Web サイトは、アプリケーション・サーバーなど、SharePoint をインストールする最初のサーバーにデフォルトでインストールされます。詳細は、「[SharePoint サーバー管理の Web サイトの作成](#)」を参照してください。
- **SharePoint Search が設定されている：** アプリケーション・サーバーで、**SharePoint Search** サービスを開始します。詳細は、「[SharePoint Search サービスの設定](#)」および「[SharePoint Search サービスの設定](#)」を参照してください。サービス名の詳細については、「[SharePoint 2010、2013、2016 の用語](#)」を参照してください。
- **Web アプリケーションが作成されている：** リストアを完了する前にすべての Web アプリケーションをファームに対して再作成すると、各 Web アプリケーションに関連付けられているタイマー・ジョブが作成されます。詳細は、「[Web アプリケーションの再作成](#)」を参照してください。
- **NetVault Backup ソフトウェアと Plug-in for SharePoint がインストールされていること：** 損傷したサーバーにもともと存在したものと同一バージョンの NetVault Backup と本プラグインをインストールし、同じように設定する必要があります。
- **フル・バックアップとオプションの差分バックアップが使用可能である：** 利用可能な場合は、最新のフル・バックアップと差分バックアップがあることを確認してください。
- **Plug-in for FileSystem による追加項目のバックアップが使用可能である：** 次の項目のバックアップが使用可能であることを確認してください。詳細については、「[NetVault Backup および Plug-in for FileSystem を使用して保護する追加アイテム](#)」を参照してください。
  - カスタマイズ
  - 代替アクセス・マッピング
  - SharePoint Farm の設定

## ディザスタ・リカバリの手順

小規模から中規模の導入のディザスタ・リカバリの詳細については、<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=102839&clcid=0x409> を参照してください。

- **フル・バックアップのリストア：** 少なくとも、リカバリにはフル・バックアップのリストアが必要です。
  - 1 **[セクション・セット作成]** ページで、最後の **[フル・バックアップ]** のセーブセットを選択します。
  - 2 **[ファーム]** ノードを選択します。
  - 3 **[セクション・セット作成]** ページで、**[プラグイン・オプションの編集]** をクリックして、以下の手順を完了します。
    - **[バックアップ・タイプ]** のラベルが、「**SP CMDLET FULL**」または「**STSADM FULL**」であることを確認します。
    - **[SQL Server のユーザー名]** フィールドで、「**DOMAIN\username**」形式を使用して「**sysadmin**」サーバー・ロールを持つユーザー名を指定します。



- **[パスワード]** フィールドで、上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。
  - 4 設定を保存するには、**[OK]**をクリックし、**[次へ]**をクリックして、デフォルトを使用しない場合は**[ジョブ名]**を指定します。
  - 5 **[ターゲット・クライアント]**、**[スケジュール]**、**[ソース・オプション]**、および**[詳細設定]**のリストに入力し、**[保存 & 実行]**をクリックします。
- プラグインは、新しくインストールされた導入へのSharePoint Farmのフル・リストアを実行します。
- **差分バックアップのリストア (オプション)** : バックアップ戦略に差分バックアップが含まれている場合は、使用可能な最後の差分バックアップをリストアします。
    - 1 **[セクション・セット作成]** ページで、最後の **[差分バックアップ]** のセーブセットを選択します。
    - 2 **[ファーム]** ノードを選択します。
    - 3 **[セクション・セット作成]** ページで、**[プラグイン・オプションの編集]** をクリックして、以下の手順を完了します。
      - **[バックアップ・タイプ]** のラベルが、「SP CMDLET DIFFERENTIAL」または「STSADM DIFFERENTIAL」であることを確認します。
      - **[SQL Server のユーザー名]** フィールドで、「DOMAIN\username」形式を使用して「sysadmin」サーバー・ロールを持つユーザー名を指定します。
      - **[パスワード]** フィールドで、上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。
    - 4 設定を保存するには、**[OK]**をクリックし、**[次へ]**をクリックして、デフォルトを使用しない場合は**[ジョブ名]**を指定します。
    - 5 **[ターゲット・クライアント]**、**[スケジュール]**、**[ソース・オプション]**、および**[詳細設定]**のリストに入力し、**[保存 & 実行]**をクリックします。

プラグインは、新しくインストールされた導入へのSharePoint Farmの差分リストアを実行します。

## リカバリ後の手順

- **ソリューションの再導入** : 再導入するソリューション・パッケージがある場合は、STSADM の **[deploysolution]** オプションを使用します。詳細は、「**ソリューションの再導入**」を参照してください。
- **パッケージ化されていないカスタマイズと代替アクセス・マッピングのリストア** : Plug-in for *FileSystem* を使用して、パッケージ化されていないカスタマイズとマッピングをリストアします。詳細については、「**代替アクセス・マッピング**」および「**カスタマイズ**」を参照してください。
- **代替アクセス・マッピングの再作成 (オプション)** : 代替アクセス・マッピングのテキスト・ファイルを使用して、マッピングを再作成します。詳細は、「**代替アクセス・マッピングの再作成 (オプション)**」を参照してください。
- **タイマー・ジョブの再起動** : Web アプリケーションのバックアップをリストアすると、一部のタイマー・ジョブが開始されません。詳細は、「**タイマー・ジョブの再起動**」を参照してください。
- **機能の再有効化** : ソリューションに含まれている機能を有効にする必要がある場合は、適切なレベル (Web アプリケーション、サイト・コレクション、または Web サイト) で機能を有効にします。詳細は、「**機能の再有効化**」を参照してください。
- **インデックスのスケジュールの再設定** : インデックスのスケジュールを適切な間隔に戻します。詳細は、「**インデックスのスケジュールの再設定**」を参照してください。
- **IIS の再起動** : IIS の設定が最新であることを確認するには、IIS を再起動します。詳細は、「**IIS の再起動**」を参照してください。

# 代替サーバーまたはファームへのリストア

このトピックでは、以下の手順について説明します。

- [代替サーバーまたはファームへのリストアのプロセスについて](#)
- [前提条件の検証](#)
- [個別のサイト・コレクションを代替ファームにリストアする](#)
- [Web アプリケーションの代替サーバーまたはファームへのリストア](#)
- [代替サーバーまたはファームへの SharePoint Search のリストア](#)
- [代替サーバーまたはファームへの共有サービス・プロバイダのリストア](#)
- [単一サーバーへの導入のディザスタ・リカバリを代替サーバーに実行する](#)
- [小規模ファームまたはスケールアウトされたファームのディザスタ・リカバリを代替ファームに実行する](#)

## 代替サーバーまたはファームへのリストアのプロセスについて

SharePoint PowerShell Cmdlets および STSADM では、新しい設定へのリストア機能によって、代替のサーバーまたはファームにリストアできます。ただし、新しい設定にリストアすると、より複雑になり、ユーザーからの手動操作がより多く必要になります。

代替サーバーまたはファームにリストアするには、次の手順を実行します。

- 前提条件を検証します。
- プラグインによって一時ファイルのディレクトリにバックアップ・ファイルをリストアします。
- 代替サーバーにバックアップをリストアします。
- リストア後の手順を実行します。

次のトピックでは、代替サーバーへの、個別のサイト・コレクション、Web アプリケーション、SSP、SharePoint Search のリストア、およびディザスタ・リカバリなど、複数のリストア・シナリオの手順について説明します。代替サーバーまたはファームへのリストアを成功させるためには、Quest はこれらの手順を遵守することをお勧めします。

## 前提条件の検証

代替 SharePoint サーバーまたはファームに、ファーム全体または細分化されたリストアを実行する場合は、次の前提条件が満たされていることを確認してからリストア手順（詳細については以降のトピックで説明されています）を開始してください。

- **同じバージョンおよびエディションの SharePoint** : 代替 SharePoint Server またはファームに、ソースの SharePoint Server またはファームと同じバージョンおよびエディションの SharePoint がインストールされていることを確認します。この要件には、サービス・パックとパッチ・レベルも同じであることが含まれます。
- **同じファーム導入** : 代替 SharePoint Server またはファームへの導入が、ソースのサーバーまたはファームへの導入と一致していることを確認します。たとえば、単一サーバーへの導入からバックアップをリストアする場合、別の単一サーバー導入に対してのみリストアできます。小規模ファームへの導入の場合、別の小規模ファーム導入に対してのみリストアできます。ソースのサーバーまたはファームと代替の間の導入のミスマッチは、現在サポートされていません。
- **同じドメイン** : 小規模およびスケールアウトされたファームから代替の小規模およびスケールアウトされたファームにリストアするとき、Quest は両方のファームを同じネットワーク・ドメインに配置することをお勧めします。両方のファームで SharePoint 管理者と同じドメイン管理者を使用すると、リストアのプロセスが簡略化されます。



## 個別のサイト・コレクションを代替ファームにリストアする

以下の要件を満たしていることを確認します。

- **Web アプリケーションが作成されている**：個別のサイト・コレクションをリストアするとき、個別のサイト・コレクションが属している Web アプリケーションが存在することを確認します。Web アプリケーションが存在しない場合は、リストアを実行する前にその Web アプリケーションを再作成します。この手順では、各 Web アプリケーションに関連付けられているタイマー・ジョブが作成されていることを確認します。Web アプリケーションに別のデータベース名が指定されると、リストア・ジョブが完了した後に Web アプリケーションに2つのコンテンツ・データベースが接続されることとなります。詳細は、「[Web アプリケーションの再作成](#)」を参照してください。
- **新しいコンテンツ・データベースが作成されている**：リストア中に個別のサイト・コレクションの名前を変更または再配置するには、新しいコンテンツ・データベースが必要となります。
  - 1 **SharePointサーバー管理**を開き、**[アプリケーション管理]** タブを選択します。
  - 2 **[SharePoint Webアプリケーション管理]**セクションで、**[コンテンツ・データベース]**をクリックします。
  - 3 ターゲットのWebアプリケーションを選択し、**[コンテンツ・データベースの追加]**をクリックします。
  - 4 選択ツリーでバックアップ・セーブセットに移動し、リストアするオブジェクト(個別のサイト・コレクション)を選択します。詳細については、「[リストア対象データの選択](#)」を参照してください。

### リストア中にコレクションの名前を変更して移動する

- 1 **[セクション・セット作成]** ページでプラグインがインストールされているサーバーにアクセスし、利用可能な個別のコレクション・サイトのバックアップを見つけます。
- 2 選択ツリーでバックアップ・セーブセットに移動し、リストアするオブジェクト（個別のサイト・コレクション）を選択します。詳細については、「[リストア対象データの選択](#)」を参照してください。
- 3 **[セクション・セット作成]** ページで、**[プラグイン・オプションの編集]** をクリックします。**[バックアップ・タイプ]** のラベルが、「**SP CMDLET INDIVIDUAL SITE**」または「**STSADM INDIVIDUAL SITE**」であることを確認します。
- 4 設定を保存するには、**[OK]** をクリックし、**[次へ]** をクリックして、デフォルトを使用しない場合は**[ジョブ名]**を指定します。
- 5 **[ターゲット・クライアント]** のリストで、個別のサイト・コレクションのバックアップがリストアされる代替ファームの、プラグインがインストールされているサーバーを選択します。
- 6 **[スケジュール]**、**[ソース・オプション]**、および**[詳細設定]** のリストに入力し、**[保存 & 実行]** をクリックします。

詳細は、「[ジョブのファイナライズと実行](#)」を参照してください。

プラグインは、代替サーバーまたはファームごとにバックアップ・ファイルをリストアします。リストアに含まれている各個別のサイト・コレクションは、`<directoryForTemporaryFiles>\nvsprestore` ディレクトリ（NetVault Backup のリストア・ジョブ・ログで指定されています）に保存されている別のバックアップ・ファイルにリストアされます。

- 7 代替サーバーまたはファームの、プラグインがインストールされているサーバーで、リストアする各サイト・コレクションに対して適切なSTSADMコマンドを実行します。
  - 個別のサイト・コレクションを代替 Web アプリケーションに再配置するには、次のコマンドを実行します。

```
stsadm -o restore -url <newURL> -filename <fileName>
```

実際の操作では、変数を次の情報で置き換えます。

- **<newURL>**: 次の形式で、サイト・コレクションの新しい URL を入力します。  
**http:\\<newWebApplication>\<originalURL>**

- **<fileName>**: **<directoryForTemporaryFiles>\nvsprestore** ディレクトリ（NetVault Backup のリストア・ジョブ・ログで指定されています）に保存されている、個別のサイト・コレクションのバックアップ・ファイルの名前を入力します。
- 個別のサイト・コレクションを代替 Web アプリケーションに名前変更および再配置するには、次のコマンドを実行します。

```
stsadm -o restore -url <newURL> -filename <fileName>
```

実際の操作では、変数を次の情報で置き換えます。

- **<newURL>**: 次の形式で、サイト・コレクションの新しい URL を入力します。  
**http:\\<newWebApplication>\<newURL>**
- **<fileName>**: **<directoryForTemporaryFiles>\nvsprestore** ディレクトリ（NetVault Backup のリストア・ジョブ・ログで指定されています）に保存されている、個別のサイト・コレクションのバックアップ・ファイルの名前を入力します。

## Webアプリケーションの代替サーバーまたはファームへのリストア

以下の要件を満たしていることを確認します。

- **Web アプリケーションが作成されている**：リストアを実行する前に、代替ファームに Web アプリケーションを作成します。この手順では、各 Web アプリケーションに関連付けられているタイマー・ジョブが作成されていることを確認します。Web アプリケーションを作成するとき、新しい Web アプリケーションに対して指定された **【負荷分散 URL】** が、リストアする Web アプリケーションの URL と一致することを確認してください。代替ファームで、**Web アプリケーションの再作成**で説明する手順を実行します。

Web アプリケーションと関連するデータベース名は、リストアされるバックアップ・ジョブの NetVault Backup のログで詳しく説明されています。たとえば、バックアップ・ジョブの NetVault Backup のログが SharePoint の次のツリーが含まれていて、**SharePoint - 2475** Web アプリケーションをリストアする場合は、次の設定を使用して Web アプリケーションを作成します。

- Web アプリケーション名：SharePoint - 2475
  - データベース名：WSS\_Content\_2475
  - 負荷分散 URL: http:\\<newWebServerHost>:<originalPortNumber>

```
Farm\  
  [SharePoint_Config]\  
    Windows SharePoint Services Web Application\  
      SharePoint - 2475\  
        WSS_Content_2475\  
          SharePoint - 80\  
            WSS_Content\  
  [WSS_Administration]\  
    [Web Application]\  
      SharePoint_AdminContent_e2062b53-61cf-4ca3-aef4-  
        076f37aec653\  
  SharedServices1\  
    [SharePoint - 47807]\  
      SharedServiceContent\  
    [SharedServices1_DB]\  
  [UserProfileApplication]\  
  [SessionStateSharedApplication]\  
  [Shared Search Index]\  
  [SharedServices1_Search_DB]
```

```
Global Search Settings\  
Windows SharePoint Services Help Search\  
[Search instance]\  
[WSS_Search_SPVMA-64]\
```

**i** **重要** : SharePoint Webアプリケーションをバックアップして、次にこのアプリケーションを新しいファームにリストアした場合、一部のSharePointのタイマー・ジョブの定義は正常にリストアされません。タイマー・ジョブが確実に作成されるようにリストアを実行する前にWebアプリケーションを作成する必要がありますが、それが不要になるようにする修正の詳細については、「<http://support.microsoft.com/kb/942989>」を参照してください。

- **コンテンツ・データベースが削除されている** : 新しいファームのコンテンツ・データベースの名前がソース・ファームのコンテンツ・データベースの名前と確実に一致するように、リストアしている Web アプリケーションのすべてのコンテンツ・データベースを削除します。詳細は、「[コンテンツ・データベースの削除](#)」を参照してください。
- **SharePoint Timer が停止している** : プラグインが代替ファームにインストールされているサーバーで、Windows の [コントロール・パネル] の [サービス] ウィンドウを使用して、[SharePoint Timer] サービスのステータスが [停止] であることを確認します。この手順では、リストア・ジョブ中に更新の競合を回避します。サービス名の詳細については、「[SharePoint 2010、2013、2016 の用語](#)」を参照してください。

## リストアの開始

- **フル・バックアップのリストア** : 少なくとも、Web アプリケーションを代替ファームにリストアするには、フル・バックアップのリストアが必要です。
  - 1 [セクション・セット作成] ページで、最後の [フル・バックアップ] のセーブセットを選択します。
  - 2 [ファーム]ノードを選択します。
  - 3 [セクション・セット作成]ページで、[プラグイン・オプションの編集]をクリックして、以下の手順を完了します。
    - [バックアップ・タイプ] のラベルが、「SP CMDLET FULL」または「STSADM FULL」であることを確認します。
    - [バックアップのみからファイルをリストアする] を選択します。
  - 4 設定を保存するには、[OK]をクリックし、[次へ]をクリックして、デフォルトを使用しない場合は[ジョブ名]を指定します。
  - 5 [ターゲット・クライアント]のリストで、代替ファームにプラグインがインストールされているサーバーを選択します。
  - 6 [スケジュール]、[ソース・オプション]、および[詳細設定]のリストに入力し、[保存 & 実行]をクリックします。

プラグインは、Webアプリケーションの完全なリストアを実行します。
- **差分バックアップのリストア (オプション)** : バックアップ戦略に差分バックアップが含まれている場合は、使用可能な最後の差分バックアップをリストアします。
  - 1 [セクション・セット作成] ページで、最後の [差分バックアップ] のセーブセットを選択します。
  - 2 [ファーム]ノードを選択します。
  - 3 [セクション・セット作成]ページで、[プラグイン・オプションの編集]をクリックして、以下の手順を完了します。
    - [バックアップ・タイプ] のラベルが、「SP CMDLET DIFFERENTIAL」または「STSADM DIFFERENTIAL」であることを確認します。
    - [バックアップのみからファイルをリストアする] を選択します。

- 4 設定を保存するには、[OK]をクリックし、[次へ]をクリックして、デフォルトを使用しない場合は[ジョブ名]を指定します。
- 5 [ターゲット・クライアント]のリストで、代替ファームにプラグインがインストールされているサーバーを選択します。
- 6 設定を保存するには、[OK]をクリックし、[次へ]をクリックして、デフォルトを使用しない場合は[ジョブ名]を指定します。
- 7 [スケジュール]、[ソース・オプション]、および[詳細設定]のリストに入力し、[保存 & 実行]をクリックします。

プラグインは、代替サーバーまたはファームにバックアップ・パッケージをリストアします。

- **フル・バックアップおよび差分バックアップを代替ファームへリストアする**：代替ファームにプラグインがインストールされているサーバーで、次の STSADM コマンドを実行して、新しい設定にフル・バックアップをリストアします。

```
stsadm -o restore -directory <directoryForTemporaryFiles>\nvspstore
-restoremethode new -username <SQLserverUserName> -password <password>
-item "FARM\Windows SharePoint Services Web Application\
<WebApplicationName>"
```

実際の操作では、変数を次の情報で置き換えます。

- **<directoryForTemporaryFiles>**: [設定] ダイアログ・ボックスで指定した UNC 共有パスを入力します。
- **<SQLserverUserName>**: 「DOMAIN\username」形式で、「sysadmin」サーバー・ロールを持つ SQL Server のユーザーを指定します。
- **<password>**: 上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。
- **<WebApplicationName>**: リストアする Web アプリケーションの名前を入力します。

STSADM は対話型のセッションを開始し、次の情報に対するプロンプトが表示されます。

項目	パラメータ	新しい値
Webアプリケーション	新しいWebアプリケーションのURL	新しいWebサーバーのホスト名と元のポートによる、新しいURLを入力します。
	新しいWebアプリケーション名	<default>を受け入れるには、Enterキーを押します。
コンテンツ・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「Server\Instance Name」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	<default>のSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、Enterキーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	<default>を受け入れるには、Enterキーを押して、結果のデータベース名が破損しているファームのコンテンツ・データベースの名前と一致することを確認します。

## リストアの実行

代替サーバーまたはファームへのリストア中に、SharePoint PowerShell Cmdlets または STSADM はソース・サーバーまたはファームのサイト・コレクション管理者を保持します。ソース・サーバー・ファームのサイト・コレクションの管理者が、代替サーバーまたはファームのサイト・コレクションの管理者と異なる場合、代替サーバーまたはファームにリストアされたすべてのサイト・コレクションでサイト・コレクションの管理者を更新します。詳細は、「[サイト・コレクションの管理者がソースおよび代替のサーバーで一致することの確認](#)」を参照してください。

## 代替サーバーまたはファームへのSharePoint Searchのリストア

次の手順では、**SharePoint Search** サービスを代替サーバーにリストアする方法を説明します。サービス名の詳細については、「[SharePoint 2010、2013、2016 の用語](#)」を参照してください。

以下の要件を満たしていることを確認します。

- **SharePoint Search サービスが停止した**：SharePoint Search サービスを停止します。詳細は、「[SharePoint Search サービスの停止](#)」を参照してください。
- **検索インスタンス・データベースが削除された**：検索インスタンス・データベースを削除します。詳細は、「[検索インスタンス・データベースの削除](#)」を参照してください。
- **SharePoint Search サービスを再起動した**：SharePoint Search サービスを再起動します。詳細は、「[SharePoint Search サービスの再起動](#)」を参照してください。
- **検索インスタンス・データベースが再度削除された**：新しいファームに対する検索インスタンス・データベースの名前が、SharePoint Search サービスを開始したときに指定された名前と確実に同じになるように、SharePoint Search サービスの作成プロセス中に指定されたコンテンツ・データベースが再度削除されたことを検証します。詳細は、「[検索インスタンス・データベースの削除](#)」を参照してください。

## リストアの開始

- **フル・バックアップのリストア**：少なくとも、SharePoint Search データベースをリストアするには、フル・バックアップのリストアが必要です。
  - 1 **[セクション・セット作成]** ページで、最後の **[フル・バックアップ]** のセーブセットを選択します。
  - 2 **[ファーム]** ノードを選択します。
  - 3 **[セクション・セット作成]** ページで、**[プラグイン・オプションの編集]** をクリックして、以下の手順を完了します。
    - **[バックアップ・タイプ]** のラベルが、「**SP CMDLET FULL**」または「**STSADM FULL**」であることを確認します。
    - **[バックアップのみからファイルをリストアする]** を選択します。
  - 4 設定を保存するには、**[OK]** をクリックし、**[次へ]** をクリックして、デフォルトを使用しない場合は **[ジョブ名]** を指定します。
  - 5 **[ターゲット・クライアント]** のリストで、代替ファームにプラグインがインストールされているサーバーを選択します。
  - 6 **[スケジュール]**、**[ソース・オプション]**、および **[詳細設定]** のリストに入力し、**[保存 & 実行]** をクリックします。プラグインは、代替サーバーまたはファームにバックアップ・パッケージをリストアします。

- **代替ファームへのフル・バックアップのリストア**：代替ファームにプラグインがインストールされているサーバーで、次の STSADM コマンドを実行して、新しい設定にフル・バックアップをリストアします。

```
stsadm -o restore -directory <directoryForTemporaryFiles>\nvsprestore
  -restoremethode new -username <SQLserverUserName> -password <password>
  -item "FARM\Windows SharePoint Services Help Search"
```

実際の操作では、変数を次の情報で置き換えます。

- **<directoryForTemporaryFiles>**: [設定] ダイアログ・ボックスで指定した UNC 共有パスを入力します。
- **<SQLserverUserName>**: 「DOMAIN\username」形式で、「sysadmin」サーバー・ロールを持つ SQL Server のユーザーを指定します。
- **<password>**: 上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。

STSADM は対話型のセッションを開始し、次の情報に対するプロンプトが表示されます。

項目	パラメータ	新しい値
検索インスタンス・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「ServerInstance Name」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	<default>のSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押して、結果のデータベース名が破損しているファームのコンテンツ・データベースの名前と一致することを確認します。

- **差分バックアップのリストア (オプション)**：バックアップ戦略に差分バックアップが含まれている場合は、使用可能な最後の差分バックアップをリストアします。

- 1 [セクション・セット作成] ページで、最後の [差分バックアップ] のセーブセットを選択します。
- 2 [ファーム]ノードを選択します。
- 3 [セクション・セット作成] ページで、[プラグイン・オプションの編集] をクリックして、以下の手順を完了します。
  - [バックアップ・タイプ] のラベルが、「SP CMDLET DIFFERENTIAL」または「STSADM DIFFERENTIAL」であることを確認します。
  - [バックアップのみからファイルをリストアする] を選択します。
- 4 設定を保存するには、[OK] をクリックし、[次へ] をクリックして、デフォルトを使用しない場合は [ジョブ名] を指定します。
- 5 [ターゲット・クライアント] のリストで、代替ファームにプラグインがインストールされているサーバーを選択します。
- 6 [スケジュール]、[ソース・オプション]、および [詳細設定] のリストに入力し、[保存 & 実行] をクリックします。

プラグインは、代替サーバーまたはファームにバックアップ・パッケージをリストアします。



- **代替ファームへの差分バックアップのリストア**：代替ファームにプラグインがインストールされているサーバーで、次の STSADM コマンドを実行して、新しい設定にフル・バックアップをリストアします。

```
stsadm -o restore -directory <directoryForTemporaryFiles>\nvspstore
  -restoremethod new -username <SQLserverUserName> -password <password>
  -item "FARM\Windows SharePoint Services Help Search"
```

実際の操作では、変数を次の情報で置き換えます。

- **<directoryForTemporaryFiles>**: [設定] ダイアログ・ボックスで指定した UNC 共有パスを入力します。
- **<SQLserverUserName>**: 「DOMAIN\username」形式で、「sysadmin」サーバー・ロールを持つ SQL Server のユーザーを指定します。
- **<password>**: 上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。

STSADM は対話型のセッションを開始し、次の情報に対するプロンプトが表示されます。

項目	パラメータ	新しい値
検索インスタンス・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しい SQL Server データベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外の SQL Server インスタンス名には、「ServerInstance Name」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	<default>の SQL Server Data ディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しい SQL Server インスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押して、結果のデータベース名が破損しているファームのコンテンツ・データベースの名前と一致することを確認します。

- **インデックスのスケジュールの再設定**：インデックスのスケジュールを適切な間隔に戻します。詳細は、「インデックスのスケジュールの再設定」を参照してください。
- **サイト・コレクションの管理者の確認**：代替サーバーまたはファームへのリストア中に、STSADM はソース・サーバーまたはファームのサイト・コレクション管理者を保守します。ソース・サーバー・ファームのサイト・コレクションの管理者が、代替サーバーまたはファームのサイト・コレクションの管理者と異なる場合、代替サーバーまたはファームにリストアされたすべてのサイト・コレクションでサイト・コレクションの管理者を更新します。詳細は、「[サイト・コレクションの管理者がソースおよび代替のサーバーで一致することの確認](#)」を参照してください。

## 代替サーバーまたはファームへの共有サービス・プロバイダのリストア

以下の手順では、代替サーバーまたはファームに SSP をリストアする方法について説明します。SSP を代替サーバーまたはファームにリストアする場合は、そのサーバーまたはファームに同じ名前前の SSP がいないことを確認します。同じ名前前の SSP が存在する場合は、既存の SSP の名前を変更するか削除します。サーバーまたはファーム内の唯一の SSP である場合に限り、デフォルトの SSP を削除できます。

以下の要件を満たしていることを確認します。

- **SSP が存在しない**：代替サーバーまたはファームにリストアされる SSP と同じタイトルの SSP が存在する場合、リストア・ジョブは失敗します。リストア・ジョブを送信する前に、代替サーバーまたはファーム内の既存の SSP の名前を変更または削除します。

既存の SSP の名前を変更するには、プラグインがインストールされているサーバーで次の STSADM コマンドを入力します。



```
stsadm -o editssp -title <existing_SSP_name> -newtitle <new_SSP_name>
```

既存の SSP を削除するには、プラグインがインストールされているサーバーで次の STSADM コマンドを入力します。

```
stsadm -o deletessp -title <existing_SSP_name> -deletedatabases
```

依存オブジェクトがある場合は、SSP を削除することはできません。したがって、Quest は既存の SSP を削除するのではなく名前を変更することをお勧めします。

- **SSP 管理サイト・ホストの Web アプリケーションが作成されている**：リストアを完了する前に代替サーバーまたはファームに SSP 管理サイト・ホスト Web アプリケーションを再作成すると、Web アプリケーションに関連付けられているタイマー・ジョブが作成されます。（代替ファームで、**Web アプリケーションの再作成**で説明するステップを実行します。）たとえば、バックアップ・ジョブの NetVault Backup のログが SharePoint の次のツリーに含まれている場合、次の SSP Web アプリケーションが作成される必要があります。Web アプリケーション名：SharePoint - 47807; データベース名：SharedServicesContent

```
Farm\  
  [SharePoint_Config]\  
    Windows SharePoint Services Web Application\  
      SharePoint - 2475\  
        WSS_Content_2475\  
      SharePoint - 80\  
        WSS_Content\  
    [WSS_Administration]\  
      [Web Application]\  
        SharePoint_AdminContent_e2062b53-61cf-4ca3-aef4-076f37aec653\  
    SharedServices1\  
      [SharePoint - 47807]\  
        SharedServiceContent\  
      [SharedServices1_DB]\  
      [UserProfileApplication]\  
      [SessionStateSharedApplication]\  
      [Shared Search Index]\  
        [SharedServices1_Search_DB]\  
    Global Search Settings\  
    Windows SharePoint Services Help Search\  
      [Search instance]\  
        [WSS_Search_SPVMA-64]\
```

- **共有サービス・プロバイダ管理サイト・ホストのコンテンツ・データベースが削除されている**：新しいサーバーまたはファームの SSP 管理サイト・ホストのコンテンツ・データベースの名前が、ソースのサーバーまたはファームのコンテンツ・データベースの名前と確実に一致するように、作成されたコンテンツ・データベースが **SQL Server Management Studio** で削除されたことを確認します。

- 1 SQL Server インスタンスが存在するサーバーで、**SQL Server Management Studio**を開きます。
- 2 **[オブジェクト・エクスプローラ]**で**[データベース]**ノードに移動し、SSP管理サイト・ホストのWebアプリケーションのデータベースを右クリックして**[削除]**を選択します。
- 3 **[オブジェクトの削除]**ダイアログ・ボックスで、**[既存の接続を閉じる]**を選択し**[OK]**をクリックします。

## リストアの開始

- **フル・バックアップのリストア**：少なくとも、SSP をリストアするには、フル・バックアップのリストアが必要です。
  - 1 **[セレクション・セット作成]** ページで、最後の **[フル・バックアップ]** のセーブセットを選択します。

- 2 [ファーム]ノードを選択します。
- 3 [セクション・セット作成]ページで、[プラグイン・オプションの編集]をクリックして、以下の手順を完了します。
  - [バックアップ・タイプ] のラベルが、「SP CMDLET FULL」または「STSADM FULL」であることを確認します。
  - [バックアップのみからファイルをリストアする] を選択します。
- 4 設定を保存するには、[OK]をクリックし、[次へ]をクリックして、デフォルトを使用しない場合は[ジョブ名]を指定します。
- 5 [ターゲット・クライアント]のリストで、代替サーバーまたはファームにプラグインがインストールされているサーバーを選択します。
- 6 [スケジュール]、[ソース・オプション]、および[詳細設定]のリストに入力し、[保存 & 実行]をクリックします。

プラグインは、代替サーバーまたはファームにバックアップ・パッケージをリストアします。

- 代替サーバーまたはファームへのフル・バックアップのリストア：代替サーバーまたはファームにプラグインがインストールされているサーバーで、次の STSADM コマンドを実行して、新しい設定にフル・バックアップをリストアします。

```
stsadm -o restore -directory <directoryForTemporaryFiles>\nvsprestore
  -restoremethod new -username <SQLserverUserName> -password <password>
  -item "Farm\<SharedServiceProviderName>"
```

実際の操作では、変数を次の情報で置き換えます。

- **<directoryForTemporaryFiles>**: [設定] ダイアログ・ボックスで指定した UNC 共有パスを入力します。
- **<SQLserverUserName>**: 「DOMAIN\username」形式で、「sysadmin」サーバー・ロールを持つ SQL Server のユーザーを指定します。
- **<password>**: 上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。
- **<SharedServiceProviderName>**: ソースのサーバーまたはファームに存在していた SSP の名前を入力します。

STSADM は対話型のセッションを開始し、次の情報に対するプロンプトが表示されます。

項目	パラメータ	新しい値
Webアプリケーション	新しいWebアプリケーションのURL	新しいWebサーバーのホスト名と元のポートによる、新しいURLを入力します。
	新しいWebアプリケーション名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。
コンテンツ・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「Server\Instance Name」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	デフォルトのSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	結果のデータベース名がソース・サーバーまたはファームのコンテンツ・データベースの名前と確実に一致するように、 <b>Enter</b> キーを押して<default>を確認します。

項目	パラメータ	新しい値
共有サービス・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「 <b>ServerInstance Name</b> 」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	デフォルトのSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	結果のデータベース名がソース・サーバーまたはファームのコンテンツ・データベースの名前と確実に一致するように、 <b>Enter</b> キーを押して <default>を確認します。
ユーザー・プロファイル・アプリケーション	新しいサーバー名	新しいアプリケーション・サーバーのホスト名を入力します。
共有検索インデックス	新しいサーバー名	新しいアプリケーション・サーバーのホスト名を入力します。
共有検索インデックス・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「 <b>ServerInstance Name</b> 」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	デフォルトのSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	結果のデータベース名がソース・サーバーまたはファームのコンテンツ・データベースの名前と確実に一致するように、 <b>Enter</b> キーを押して <default>を確認します。

- **差分バックアップのリストア**（オプション）：バックアップ戦略に差分バックアップが含まれている場合は、使用可能な最後の差分バックアップをリストアします。

- 1 **[セクション・セット作成]** ページで、最後の **[差分バックアップ]** のセーブセットを選択します。
- 2 **[ファーム]** ノードを選択します。
- 3 **[セクション・セット作成]** ページで、**[プラグイン・オプションの編集]** をクリックして、以下の手順を完了します。
  - **[バックアップ・タイプ]** のラベルが、「**SP CMDLET DIFFERENTIAL**」または「**STSDM DIFFERENTIAL**」であることを確認します。
  - **[バックアップのみからファイルをリストアする]** を選択します。
- 4 設定を保存するには、**[OK]** をクリックし、**[次へ]** をクリックして、デフォルトを使用しない場合は **[ジョブ名]** を指定します。
- 5 **[ターゲット・クライアント]** のリストで、代替ファームにプラグインがインストールされているサーバーを選択します。
- 6 **[スケジュール]**、**[ソース・オプション]**、および **[詳細設定]** のリストに入力し、**[保存 & 実行]** をクリックします。

プラグインは、代替サーバーまたはファームにバックアップ・パッケージをリストアします。

- 代替サーバーまたはファームへの差分バックアップのリストア：代替サーバーまたはファームにプラグインがインストールされているサーバーで、次の STSADM コマンドを実行して、新しい設定にフル・バックアップをリストアします。

```
Stsadm -o restore -directory <directoryForTemporaryFiles>\nvsprestore
  -restoremethode new -username <SQLserverUserName> -password <password>
  -item "Farm\<SharedServiceProviderName>"
```

実際の操作では、変数を次の情報で置き換えます。

- **<directoryForTemporaryFiles>**: [設定] ダイアログ・ボックスで指定した UNC 共有パスを入力します。
- **<SQLserverUserName>**: 「DOMAIN\username」形式で、「sysadmin」サーバー・ロールを持つ SQL Server のユーザーを指定します。
- **<password>**: 上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。
- **<SharedServiceProviderName>**: ソースのサーバーまたはファームに存在していた SSP の名前を入力します。

STSADM は対話型のセッションを開始し、次の情報に対するプロンプトが表示されます。

項目	パラメータ	新しい値
Webアプリケーション	新しいWebアプリケーションのURL	新しいWebサーバーのホスト名と元のポートによる、新しいURLを入力します。
	新しいWebアプリケーション名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。
コンテンツ・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「ServerInstance Name」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	<default>のSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押して、結果のデータベース名がソース・サーバーまたはファームのコンテンツ・データベースの名前と一致することを確認します。
共有サービス・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「ServerInstance Name」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	<default>のSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押して、結果のデータベース名がソース・サーバーまたはファームのコンテンツ・データベースの名前と一致することを確認します。
ユーザー・プロファイル・アプリケーション	新しいサーバー名	新しいアプリケーション・サーバーのホスト名を入力します。
共有検索インデックス・データベース	新しいサーバー名	新しいアプリケーション・サーバーのホスト名を入力します。

項目	パラメータ	新しい値
共有検索インデックス・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「 <b>ServerInstance Name</b> 」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	<default>のSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押して、結果のデータベース名がソース・サーバーまたはファームのコンテンツ・データベースの名前と一致することを確認します。
検索インスタンス・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「 <b>ServerInstance Name</b> 」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	<default>のSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押して、結果のデータベース名がソース・サーバーまたはファームのコンテンツ・データベースの名前と一致することを確認します。

## リストアの実行

単一サーバーへの導入では、通常、ローカル管理者が SharePoint 管理者として使用されます。この設定の場合、それぞれの導入が異なるローカル管理者を使用するため、代替の単一サーバー導入への SSP のリストアが複雑になります。そのため、次のリストア後の手順を実行して、代替サーバーにリストアされた共有サービスが代替サーバーのローカル管理者を確実に参照するようにする必要があります。

また、いくつかの**共有サービス・プロバイダ**設定が参照しているホスト名はリストア中に更新されないため、代替サーバーまたはファームを参照するように変更する必要があります。

- **共有サービス・プロバイダ・サービスの資格情報の追加**：リストア後に、代替サーバーまたはファームに SSP サービス認証情報が追加されていることを確認します。詳細は、「[代替サーバーまたはファームへの SSP 認証情報の追加](#)」を参照してください。
- **個人設定サービスの権限の検証**：[共有サービスの権限] が、代替サーバーのローカル管理者または代替ファームのドメイン管理者を参照していることを確認します。詳細は、「[共有サービスの権限が正しい管理者を参照していることの確認](#)」を参照してください。
- **ビジネス・データ・カタログの権限の検証**：[ビジネス・カタログの権限] が、代替サーバーのローカル管理者または代替ファームのドメイン管理者を参照していることを確認します。詳細は、「[ビジネス・カタログの権限が正しい管理者を参照していることの確認](#)」を参照してください。
- **検索権限のある Web ページ設定の検証**：[検索設定] の [権限のあるページ] が、代替サーバーまたはファームを参照していることを確認します。詳細は、「[検索設定の権限のあるページの検証](#)」を参照してください。
- **信頼できるファイルの場所の検証**：[Excel Services の信頼されているファイルの場所] の [信頼できるファイル] の場所が、代替サーバーを参照していることを確認します。詳細は、「[信頼できるファイルの場所の検証](#)」を参照してください。

# 単一サーバーへの導入のディザスタ・リカバリを代替サーバーに実行する

単一サーバーへの導入でのディザスタ・リカバリには、ファームレベル障害（SharePoint SQL Server インスタンス、アプリケーション・サーバー、および Web サーバーを格納するサーバー全体の損失）の後の、SharePoint の導入全体のリストアとリカバリが含まれます。ディザスタ・リカバリを実行するには、少なくとも 1 つのフル・バックアップを含む最小のバックアップ・セットが必要です。

以下の手順では、損傷した SharePoint の導入が存在したサーバー以外のサーバーにディザスタ・リカバリを実行する方法を詳しく説明します。この手順は、完全なメディア障害が発生し、破損したサーバーからのバックアップを別のホスト名を持つ交換サーバーにリストアする場合に使用できます。

**i** | **重要：**ディザスタ・リカバリを実行するとき、Questは、同じ設定で再構築された損傷したサーバー、または元のホストの設定（ホスト名を含む）を模倣して設定した新しいサーバーに、リカバリを実行することをお勧めします。そうしないと、SharePoint PowerShell CmdletsまたはSTSADMでは自動的に更新されないいくつかの設定でホスト名を変更するために、リカバリ後の処理にさらに多くの手順が必要になります。

以下の要件を満たしていることを確認します。

- **SharePoint Server がインストールされている：** 損傷したサーバーに存在したものと同一バージョンおよびエディションの SharePoint ソフトウェアをシステムにインストールします。この手順では、コンピュータが Web サーバーとして動作するように IIS をインストールおよび設定し、Microsoft.NET Framework バージョン 3.0 をインストールし、ASP.NET 2.0 を有効にします。

**i** | **重要：**単一サーバーへの導入では、SharePointソフトウェアの基本的なインストール（無料または拡張バージョン）が、これらの手順で想定されます。

- **サービス・パックがインストールされている：** 損傷したサーバーに以前インストールされていた Windows Server および SharePoint と同じサービス・パックをインストールします。WSS には最低でも SP1 が必要です。
- **新しい導入での共有サービスの削除：** 新しくインストールされた導入で、デフォルトの SSP（**SharedServices1**）を削除します。詳細は、「**新しい導入での共有サービスの削除**」を参照してください。
- **Web アプリケーションが作成されている：** リストアを完了する前にすべての Web アプリケーションをファームに対して再作成すると、各 Web アプリケーションに関連付けられているタイマー・ジョブが作成されます。詳細は、「**Web アプリケーションの再作成**」を参照してください。
- **コンテンツ・データベースが削除されている：** 新しいファームのコンテンツ・データベースの名前が損傷したファームのコンテンツ・データベースの名前と確実に一致するように、**[設定データベース]** と **[サーバー管理]** Web サイトを除くすべてのコンテンツ・データベースが削除されたことを確認します。詳細については、「**コンテンツ・データベースの削除**」を参照してください。**[設定データベース]** と **[サーバー管理]** を除く各データベースに対して、「**コンテンツ・データベースの削除**」で説明されている手順を繰り返します。

**i** | **重要：****[設定データベース]** と **[サーバー管理]** データベースはリカバリされません。これらのデータベースは **[SharePoint製品とテクノロジー構成ウィザード]** で作成する必要があるため、これらを削除するとディザスタ・リカバリのプロセス全体を開始する必要があります。

- **SQL Server Express Data ディレクトリが存在することの確認：** 破損しているサーバーで、SQL Server Express Data ディレクトリのデフォルト・ディレクトリ以外のディレクトリが使用されている場合は、このディレクトリ構造が新たにインストールされた導入に存在していることを確認してください。



**i** **重要**：新しくインストールされた導入にSQL Server Express Dataディレクトリが存在しない場合は、リストア・ジョブが次のエラーを参照して失敗します。ファイル"<Directory\FileName>"のディレクトリ検索はオペレーティング・システム・エラー 3で失敗しました。(指定されたパスが見つかりません)。  
エラー・メッセージで参照されているディレクトリ構造を再作成し、リストア・ジョブを再び実行します。

- **NetVault Backup ソフトウェアと Plug-in for SharePoint がインストールされていること**：損傷したサーバーにもともと存在したものと同一バージョンの NetVault Backup と本プラグインをインストールし、同じように設定する必要があります。
- **フル・バックアップとオプションの差分バックアップが使用可能である**：利用可能な場合は、最新のフル・バックアップと差分バックアップがあることを確認してください。
- **Plug-in for FileSystem による追加項目のバックアップが使用可能である**：次の項目のバックアップが使用可能であることを検証してください。詳細については、「[NetVault Backup および Plug-in for FileSystem を使用して保護する追加アイテム](#)」を参照してください。
  - カスタマイズ
  - 代替アクセス・マッピング
  - SharePoint Farm の設定の記録

## リストアの開始

詳細については、次を参照してください。 <http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc262370.aspx>

- **フル・バックアップのリストア**：少なくとも、リカバリにはフル・バックアップのリストアが必要です。
  - 1 **[セクション・セット作成]** ページで、最後の **[フル・バックアップ]** のセーブセットを選択します。
  - 2 **[ファーム]** ノードを選択します。
  - 3 **[セクション・セット作成]** ページで、**[プラグイン・オプションの編集]** をクリックして、以下の手順を完了します。
    - **[バックアップ・タイプ]** のラベルが、「**SP CMDLET FULL**」または「**STSADM FULL**」であることを確認します。
    - **[バックアップのみからファイルをリストアする]** を選択します。
  - 4 設定を保存するには、**[OK]** をクリックし、**[次へ]** をクリックして、デフォルトを使用しない場合は **[ジョブ名]** を指定します。
  - 5 **[ターゲット・クライアント]** のリストで、代替ファームにプラグインがインストールされているサーバーを選択します。
  - 6 **[スケジュール]**、**[ソース・オプション]**、および **[詳細設定]** のリストに入力し、**[保存 & 実行]** をクリックします。  
プラグインは、新しくインストールされた導入への SharePoint Farm のフル・リストアを実行します。
- **差分バックアップのリストア (オプション)**：バックアップ戦略に差分バックアップが含まれている場合は、使用可能な最後の差分バックアップをリストアします。
  - 1 **[セクション・セット作成]** ページで、最後の **[差分バックアップ]** のセーブセットを選択します。
  - 2 **[ファーム]** ノードを選択します。



- 3 [セクション・セット作成] ページで、[プラグイン・オプションの編集] をクリックして、以下の手順を完了します。
  - [バックアップ・タイプ] のラベルが、「SP CMDLET DIFFERENTIAL」または「STSADM DIFFERENTIAL」であることを確認します。
  - [バックアップのみからファイルをリストアする] を選択します。
- 4 設定を保存するには、[OK] をクリックし、[次へ] をクリックして、デフォルトを使用しない場合は [ジョブ名] を指定します。
- 5 [ターゲット・クライアント] のリストで、代替ファームにプラグインがインストールされているサーバーを選択します。
- 6 [スケジュール]、[ソース・オプション]、および [詳細設定] のリストに入力し、[保存 & 実行] をクリックします。

プラグインは、代替サーバーまたはファームにバックアップ・パッケージをリストアします。

- **フル・バックアップおよび差分バックアップを代替ファームへリストアする**：代替ファームにプラグインがインストールされているサーバーで、次の STSADM コマンドを実行して、新しい設定にフル・バックアップをリストアします。

```
stsadm -o restore -directory <directoryForTemporaryFiles>\nvspstore
  -restoremethode new -username <SQLserverUserName> -password <password>
```

実際の操作では、変数を次の情報で置き換えます。

- **<directoryForTemporaryFiles>**: [設定] ダイアログ・ボックスで指定した UNC 共有パスを入力します。
- **<SQLserverUserName>**: 「DOMAIN\username」形式で、「sysadmin」サーバー・ロールを持つ SQL Server のユーザーを指定します。
- **<password>**: 上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。

STSADM は対話型のセッションを開始し、次の情報に対するプロンプトが表示されます。

項目	パラメータ	新しい値
Webアプリケーション	新しいWebアプリケーションのURL	新しいWebサーバーのホスト名と元のポートによる、新しいURLを入力します。
	新しいWebアプリケーション名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。
コンテンツ・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「ServerInstance Name」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	<default>のSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押して、結果のデータベース名が破損しているファームのコンテンツ・データベースの名前と一致することを確認します。

項目	パラメータ	新しい値
共有サービス・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「 <b>ServerInstance Name</b> 」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	<default>のSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押して、結果のデータベース名が破損しているファームのコンテンツ・データベースの名前と一致することを確認します。
ユーザー・プロファイル・アプリケーション	新しいサーバー名	新しいアプリケーション・サーバーのホスト名を入力します。
共有検索インデックス・データベース	新しいサーバー名	新しいアプリケーション・サーバーのホスト名を入力します。
共有検索インデックス・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「 <b>ServerInstance Name</b> 」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	<default>のSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押して、結果のデータベース名が破損しているファームのコンテンツ・データベースの名前と一致することを確認します。
検索インスタンス・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「 <b>ServerInstance Name</b> 」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	<default>のSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押して、結果のデータベース名が破損しているファームのコンテンツ・データベースの名前と一致することを確認します。

## リストアの実行

単一サーバーへの導入では、通常、ローカル管理者が SharePoint 管理者として使用されます。この設定の場合、それぞれの導入が異なるローカル管理者を使用するため、代替の単一サーバー導入への SSP のリストアが複雑になります。そのため、次のリストア後の手順を実行して、代替サーバーにリストアされた共有サービスが代替サーバーのローカル管理者を確実に参照するようにする必要があります。

また、いくつかの**共有サービス・プロバイダ**設定が参照しているホスト名はリストア中に更新されないため、代替サーバーを参照するように変更する必要があります。

- **共有サービス・プロバイダ・サービスの資格情報の追加**：リストア後に、代替サーバーまたはファームに SSP サービス認証情報が追加されていることを確認します。詳細は、「[代替サーバーまたはファームへの SSP 認証情報の追加](#)」を参照してください。

- **個人設定サービスの権限の検証**：[共有サービスの権限] が、代替サーバーのローカル管理者または代替ファームのドメイン管理者を参照していることを確認します。詳細は、「[共有サービスの権限が正しい管理者を参照していることの確認](#)」を参照してください。
- **ビジネス・データ・カタログの権限の検証**：[ビジネス・カタログの権限] が、代替サーバーのローカル管理者または代替ファームのドメイン管理者を参照していることを確認します。詳細は、「[ビジネス・カタログの権限が正しい管理者を参照していることの確認](#)」を参照してください。
- **検索権限のある Web ページ設定の検証**：[検索設定] の [権限のあるページ] が、代替サーバーまたはファームを参照していることを確認します。詳細は、「[検索設定の権限のあるページの検証](#)」を参照してください。
- **信頼できるファイルの場所の検証**：[Excel Services の信頼されているファイルの場所] の [信頼できるファイル] の場所が、代替サーバーを参照していることを確認します。詳細は、「[信頼できるファイルの場所の検証](#)」を参照してください。
- **ソリューションの再導入**：再導入するソリューション・パッケージがある場合は、STSADM の [deploysolution] オプションを使用します。詳細は、「[ソリューションの再導入](#)」を参照してください。
- **パッケージ化されていないカスタマイズと代替アクセス・マッピングのリストア**：Plug-in for *FileSystem* を使用して、パッケージ化されていないカスタマイズとマッピングをリストアします。詳細については、「[代替アクセス・マッピング](#)」および「[カスタマイズ](#)」を参照してください。
- **代替アクセス・マッピングの再作成**（オプション）：代替アクセス・マッピングのテキスト・ファイルを使用して、マッピングを再作成します。詳細は、「[代替アクセス・マッピングの再作成（オプション）](#)」を参照してください。
- **タイマー・ジョブの再起動**：Web アプリケーションのバックアップをリストアすると、一部のタイマー・ジョブが開始されません。詳細は、「[タイマー・ジョブの再起動](#)」を参照してください。
- **機能の再有効化**：ソリューションに含まれている機能を有効にする必要がある場合は、適切なレベル（Web アプリケーション、サイト・コレクション、または Web サイト）で機能を有効にします。詳細は、「[機能の再有効化](#)」を参照してください。
- **IIS の再起動**：IIS の設定が最新であることを確認するには、IIS を再起動します。詳細は、「[IIS の再起動](#)」を参照してください。

## 小規模ファームまたはスケールアウトされたファームのディザスタ・リカバリを代替ファームに実行する

小規模またはスケールアウトされたファームへの導入でのディザスタ・リカバリには、ファームレベル障害（SharePoint SQL Server インスタンス、アプリケーション・サーバー、および Web サーバーを格納するサーバーの損失）の後の、Sharepoint の導入全体のリストアとリカバリが含まれます。ディザスタ・リカバリを実行するには、少なくとも 1 つのフル・バックアップを含む最小のバックアップ・セットが必要です。

以下の手順では、損傷した SharePoint の導入が存在したファーム以外のファームにディザスタ・リカバリを実行する方法を詳しく説明します。この手順は、完全なメディア障害が発生し、破損したファームからのバックアップを交換ファーム（さまざまなホスト名を使用するさまざまなサーバーで構成される）にリストアする場合に使用できます。

以下の要件を満たしていることを確認します。

- **SharePoint Server がインストールされている**：損傷したファームに存在したものと同一バージョンの SharePoint ソフトウェアを、代替ファームを構成するシステムにインストールします。この手順には、ファーム内の各サーバーに次のソフトウェアをインストールおよび設定する手順が含まれます。
  - **データベース・サーバー**
    - SQL Server ソフトウェアおよびアップデート
  - **アプリケーション・サーバー**
    - .Net Framework 3.0

- フロント・エンド Web サーバー
  - インターネット・インフォメーション・サービス (IIS)
  - .Net Framework 3.0
  - APS.NET

**i** | **重要**：小規模およびスケールアウトされたファームの導入では、SharePointソフトウェアの高度なインストール（無料または拡張）が、これらの手順で想定されます。

- **サービス・パックがインストールされている**：損傷したサーバーに以前インストールされていた Windows Server および SharePoint と同じサービス・パックをインストールします。WSS には最低でも SP1 が必要です。
- **SharePoint サーバー管理の Web サイトが作成されている**：SharePoint サーバー管理の Web サイトは、アプリケーション・サーバーなど、SharePoint をインストールする最初のサーバーにデフォルトでインストールされます。詳細は、「[SharePoint サーバー管理の Web サイトの作成](#)」を参照してください。
- **SharePoint Search が設定されている**：アプリケーション・サーバーで、**SharePoint Search** サービスを開始します。詳細は、「[SharePoint Search サービスの設定](#)」および「[SharePoint Search サービスの設定](#)」を参照してください。サービス名の詳細については、「[SharePoint 2010、2013、2016 の用語](#)」を参照してください。
- **Web アプリケーションが作成されている**：リストアを完了する前にすべての Web アプリケーションをファームに対して再作成すると、各 Web アプリケーションに関連付けられているタイマー・ジョブが作成されます。詳細は、「[Web アプリケーションの再作成](#)」を参照してください。
- **コンテンツ・データベースが削除されている**：新しいファームのコンテンツ・データベースの名前が損傷したファームのコンテンツ・データベースの名前と確実に一致するように、**[設定データベース]** と **[サーバー管理]** Web サイトを除くすべてのコンテンツ・データベースが削除されたことを確認します。詳細については、「[コンテンツ・データベースの削除](#)」を参照してください。**[設定データベース]** と **[サーバー管理]** を除く各データベースに対して、「[コンテンツ・データベースの削除](#)」で説明されている手順を繰り返します。

**i** | **重要**：[設定データベース] と [サーバー管理] データベースはリカバリされません。これらのデータベースは **[SharePoint製品とテクノロジー構成ウィザード]** で作成する必要があるため、これらを削除するとディザスタ・リカバリのプロセス全体を開始する必要があります。

- **NetVault Backup ソフトウェアと Plug-in for SharePoint がインストールされていること**：損傷したサーバーにもともと存在したものと同一バージョンの NetVault Backup と本プラグインをインストールし、同じように設定する必要があります。
- **フル・バックアップとオプションの差分バックアップが使用可能である**：利用可能な場合は、最新のフル・バックアップと差分バックアップがあることを確認してください。
- **Plug-in for FileSystem による追加項目のバックアップが使用可能である**：次の項目のバックアップが使用可能であることを確認してください。詳細については、「[NetVault Backup および Plug-in for FileSystem を使用して保護する追加アイテム](#)」を参照してください。
  - カスタマイズ
  - 代替アクセス・マッピング
  - SharePoint Farm の設定の記録

## リストアの開始

詳しくは、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc262370.aspx> を参照してください。

- **フル・バックアップのリストア**：少なくとも、リカバリにはフル・バックアップのリストアが必要です。
  - 1 **[セレクション・セット作成]** ページで、最後の **[フル・バックアップ]** のセーブセットを選択します。
  - 2 **[ファーム]** ノードを選択します。

- 3 **[セレクション・セット作成]** ページで、**[プラグイン・オプションの編集]** をクリックして、以下の手順を完了します。
  - **[バックアップ・タイプ]** のラベルが、「**SP CMDLET FULL**」または「**STSADM FULL**」であることを確認します。
  - **[バックアップのみからファイルをリストアする]** を選択します。
- 4 設定を保存するには、**[OK]** をクリックし、**[次へ]** をクリックして、デフォルトを使用しない場合は**[ジョブ名]** を指定します。
- 5 **[ターゲット・クライアント]** のリストで、代替ファームにプラグインがインストールされているサーバーを選択します。
- 6 **[スケジュール]**、**[ソース・オプション]**、および**[詳細設定]** のリストに入力し、**[保存 & 実行]** をクリックします。

プラグインは、代替サーバーまたはファームにバックアップ・パッケージをリストアします。

- **差分バックアップのリストア (オプション)** : バックアップ戦略に差分バックアップが含まれている場合は、使用可能な最後の差分バックアップをリストアします。

- 1 **[セレクション・セット作成]** ページで、最後の **[差分バックアップ]** のセーブセットを選択します。
- 2 **[ファーム]** ノードを選択します。
- 3 **[セレクション・セット作成]** ページで、**[プラグイン・オプションの編集]** をクリックして、以下の手順を完了します。
  - **[バックアップ・タイプ]** のラベルが、「**SP CMDLET DIFFERENTIAL**」または「**STSADM DIFFERENTIAL**」であることを確認します。
  - **[バックアップのみからファイルをリストアする]** を選択します。
- 4 設定を保存するには、**[OK]** をクリックし、**[次へ]** をクリックして、デフォルトを使用しない場合は**[ジョブ名]** を指定します。
- 5 **[ターゲット・クライアント]** のリストで、代替ファームにプラグインがインストールされているサーバーを選択します。
- 6 **[スケジュール]**、**[ソース・オプション]**、および**[詳細設定]** のリストに入力し、**[保存 & 実行]** をクリックします。

プラグインは、代替サーバーまたはファームにバックアップ・パッケージをリストアします。

- **フル・バックアップおよび差分バックアップを代替ファームへリストアする** : 代替ファームにプラグインがインストールされているサーバーで、次の STSADM コマンドを実行して、新しい設定にフル・バックアップをリストアします。

```
stsadm -o restore -directory <directoryForTemporaryFiles>\nvsprestore
  -restoremethode new -username <SQLServerUserName> -password <password>
```

実際の操作では、変数を次の情報で置き換えます。

- **<directoryForTemporaryFiles>**: **[設定]** ダイアログ・ボックスで指定した UNC 共有パスを入力します。
- **<SQLserverUserName>**: 「**DOMAIN\username**」形式で、「**sysadmin**」サーバー・ロールを持つ SQL Server のユーザーを指定します。
- **<password>**: 上のフィールドで指定したユーザーに関連付けられているパスワードを入力します。

STSADM は対話型のセッションを開始し、次の情報に対するプロンプトが表示されます。

項目	パラメータ	新しい値
Webアプリケーション	新しいWebアプリケーションのURL	新しいWebサーバーのホスト名と元のポートによる、新しいURLを入力します。
	新しいWebアプリケーション名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。
コンテンツ・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「 <b>ServerInstance Name</b> 」形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	<default>のSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	<default>を受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押して、結果のデータベース名が破損しているファームのコンテンツ・データベースの名前と一致することを確認します。
共有サービス・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「 <b>ServerInstance Name</b> 」の形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	デフォルトのSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	結果のデータベース名が損傷したファームのコンテンツ・データベースの名前と確実に一致するように、 <b>Enter</b> キーを押して<default>を確認します。
ユーザー・プロファイル・アプリケーション	新しいサーバー名	新しいアプリケーション・サーバーのホスト名を入力します。
共有検索インデックス	新しいサーバー名	新しいアプリケーション・サーバーのホスト名を入力します。
	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「 <b>ServerInstance Name</b> 」の形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	デフォルトのSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	結果のデータベース名が損傷したファームのコンテンツ・データベースの名前と確実に一致するように、 <b>Enter</b> キーを押して<default>を確認します。



項目	パラメータ	新しい値
検索インスタンス・データベース	新しいデータベース・サーバー名	新しいSQL Serverデータベース・サーバーの名前を入力します。デフォルト以外のSQL Serverインスタンス名には、「 <b>ServerInstance Name</b> 」の形式を使用します。
	新しいディレクトリ名	デフォルトのSQL Server Dataディレクトリを受け入れるには、 <b>Enter</b> キーを押します。または、新しいSQL Serverインスタンス名のデータ・ディレクトリを入力します。
	新しいデータベース名	結果のデータベース名が損傷したファームのコンテンツ・データベースの名前と確実に一致するように、 <b>Enter</b> キーを押して<default>を確認します。

## リストアの実行

- **共有サービス・プロバイダ・サービスの資格情報の追加**：リストア後に、代替サーバーまたはファームに SSP サービス認証情報が追加されていることを確認します。詳細は、「[代替サーバーまたはファームへの SSP 認証情報の追加](#)」を参照してください。
- **個人設定サービスの権限の検証**：[共有サービスの権限] が、代替サーバーのローカル管理者または代替ファームのドメイン管理者を参照していることを確認します。詳細は、「[共有サービスの権限が正しい管理者を参照していることの確認](#)」を参照してください。
- **ビジネス・データ・カタログの権限の検証**：[ビジネス・カタログの権限] が、代替サーバーのローカル管理者または代替ファームのドメイン管理者を参照していることを確認します。詳細は、「[ビジネス・カタログの権限が正しい管理者を参照していることの確認](#)」を参照してください。
- **検索権限のある Web ページ設定の検証**：[検索設定] の [権限のあるページ] が、代替サーバーまたはファームを参照していることを確認します。詳細は、「[検索設定の権限のあるページの検証](#)」を参照してください。
- **信頼できるファイルの場所の検証**：[Excel Services の信頼されているファイルの場所] の [信頼できるファイル] の場所が、代替サーバーを参照していることを確認します。詳細は、「[信頼できるファイルの場所の検証](#)」を参照してください。
- **ソリューションの再導入**：再導入するソリューション・パッケージがある場合は、STSADM の [deploysolution] オプションを使用します。詳細は、「[ソリューションの再導入](#)」を参照してください。
- **パッケージ化されていないカスタマイズと代替アクセス・マッピングのリストア**：Plug-in for *FileSystem* を使用して、パッケージ化されていないカスタマイズとマッピングをリストアします。詳細については、「[代替アクセス・マッピング](#)」および「[カスタマイズ](#)」を参照してください。
- **代替アクセス・マッピングの再作成 (オプション)**：代替アクセス・マッピングのテキスト・ファイルを使用して、マッピングを再作成します。詳細は、「[代替アクセス・マッピングの再作成 \(オプション\)](#)」を参照してください。
- **タイマー・ジョブの再起動**：Web アプリケーションのバックアップをリストアすると、一部のタイマー・ジョブが開始されません。詳細は、「[タイマー・ジョブの再起動](#)」を参照してください。
- **機能の再有効化**：ソリューションに含まれている機能を有効にする必要がある場合は、適切なレベル (Web アプリケーション、サイト・コレクション、または Web サイト) で機能を有効にします。詳細は、「[機能の再有効化](#)」を参照してください。
- **IIS の再起動**：IIS の設定が最新であることを確認するには、IIS を再起動します。詳細は、「[IIS の再起動](#)」を参照してください。



# NetVault Backup および Plug-in for FileSystem を使用して保護する追加アイテム

- 概要
- カスタマイズ
- IIS 設定
- 代替アクセス・マッピング
- SharePoint Farm の設定の記録

## 概要

ディザスタ・リカバリのシナリオで SharePoint Farm 全体を適切に保護するには、次のアイテムをバックアップ戦略に含めます。これらのアイテムは少なくとも 1 回はバックアップする必要がありますが、Quest はそれらが変更されるたびにバックアップすることをお勧めします。

- カスタマイズ
- IIS 設定
- 代替アクセス・マッピング
- SharePoint Farm の設定の記録

## カスタマイズ

次のリンクでは、マイクロソフトは、機能、Web パーツ、セキュリティ・ポリシーの変更、およびその他のファイルを含むソリューションとして、カスタマイズを SharePoint サイトにパッケージ化することをお勧めしています。機能はソリューションの一部で、サーバー管理者によってファーム、特定の Web アプリケーション、特定のサイト・コレクション、または特定の Web サイトに対して有効にされます。

<http://office.microsoft.com/download/afile.aspx?AssetID=AM102447701033>

カスタマイズをソリューションにパッケージ化すると、SharePoint の管理者が各ソリューション・パッケージをバックアップして障害が発生すればそのソリューションを該当のサーバーに再導入できるようにすることで、バックアップとリカバリのプロセスを簡素化できます。

分散型のシステムや、カスタマイズがソリューションとしてパッケージ化されていないまたはできないシステムの場合、カスタマイズ・ファイルを個別にバックアップする必要があります。カスタマイズ・ファイルは、次のようなフロント・エンド Web サーバーの場所に格納されています。

- IIS 仮想ディレクトリ。デフォルトの場所は、次のとおりです。**%Systemroot%\inetpub**
- グローバル・アセンブリ・キャッシュ（GAC）フォルダ。場所は次の通りです。**%WinDir%\assembly**
- **%Systemroot%\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\*<version>***  
*<version>* は、SharePoint 2010 の場合は「14」、SharePoint 2013 の場合は「15」、SharePoint 2016 の場合は「16」で置き換えます。

また、一部のカスタマイズは、**web.config** ファイルへも変更を書き込みます。Quest は、アドイン・ソフトウェア・ファイルの場所の最終的なリストを決定するために、SharePoint 開発チームまたはカスタマイズのベンダーに相談することをお勧めします。

## IIS 設定

各フロント・エンド Web サーバーに対して、Quest は、ホスト仮想サーバーのルート・ディレクトリにある **web.config** ファイルに加えて、IIS Metabase を保護することをお勧めします。Plug-in for FileSystem を使用すると、これらの項目をバックアップできます。

詳細については、次を参照してください。<https://support.microsoft.com/en-us/help/240941/an-introduction-to-the-iis-metabase>

## 代替アクセス・マッピング

SharePoint に対する代替アクセス・マッピングの設定は、次のコマンドを実行して結果のバックアップ・ファイルを Plug-in for FileSystem バックアップ・ジョブに含めることで、テキスト・ファイルにダンプできます。

```
stsadm -o enumalternatedomains <backupFile>
```

## SharePoint Farm の設定の記録

SharePoint の設定は、サーバー管理で設定され、設定データベースに保存されます。設定データベースとサーバー管理は SharePoint PowerShell ベースまたは STSADM ベースのバックアップで保護されていますが、コンピュータ固有の情報が含まれていて、完全に一致するように設定された環境（すべてのソフトウェア・アップデート、サーバー名、サーバー数を含む）にのみリストアップできます。そのため、すべての設定をサーバー管理に手動で記録する必要があります。記録する必要がある項目の詳細は、次を参照してください。  
<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=102839&clcid=0x409>

これらの項目には、次のが含まれます。

- サービス・アカウント、つまり、Web アプリケーションを実行するすべてのアカウント（クローラ・アカウントや検索アカウントなどを含む）を含むアプリケーション・プールの設定。
- データベースの名前と場所。
- Web アプリケーションの名前とデータベース。各 Web アプリケーションに関連付けられているコンテンツ・データベースの名前を必ず記録してください。
- クローラ影響ルール。
- ファームレベルの検索設定。
- 外部サービスの接続設定。
- ワークフロー管理設定。
- 有効な機能。

# トラブルシューティング

- NetVault Backup トレースの有効化
- NetVault Backup トレースの無効化
- 追加情報

NetVault Backup は、NetVault Backup のバイナリ・ログのログ・メッセージを切り捨てます。プラグインに対して X トレース・レベルを有効にできます。詳細ログは NetVault Backup のトレース・ディレクトリに書き込まれます。そのディレクトリは、デフォルトでは `%ProgramFiles%\Quest\NetVault Backup\trace` で、次の命名規則に従います。 `nvsharepoint<process_id>.log`。

**i** **重要** : NetVault Backup のトレースを有効にする場合は、細心の注意を払ってください。診断の目的のみ、トレースを有効にしてください。長期間にわたってトレースが有効になっている場合、NetVault Backup のソフトウェアがインストールされているボリュームでは大量のディスク容量が消費されます。このボリュームが領域を使い果たすと、NetVault Backup データベースに影響を及ぼし、破損を引き起こす可能性があります。

## NetVault Backup トレースの有効化

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[設定変更] をクリックします。
- 2 [設定] ページで、利用可能な [サーバー設定] または [クライアント設定] をクリックします。
- 3 [クライアント設定] を選択した場合は、適切なクライアントを選択して、[次へ] をクリックします。
- 4 [設定] ページで、[一般設定] をクリックします。
- 5 [一般設定] ダイアログ・ボックスで、[トレース・ファイルを出力する] オプションを選択し、[適用] をクリックします。
- 6 [設定] ページで、[トレース・レベル] をクリックします。
- 7 [トレース・レベル] ダイアログ・ボックスで、プラグインのために適切なトレース・レベルを選択します。  
使用可能なすべての診断メッセージを表示する場合は、**LIBVERBOSE** オプションを使用します。
- 8 NetVault Backup サービスを再開します。  
詳しくは、『Quest NetVault Backup アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

## NetVault Backup トレースの無効化

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[設定変更] をクリックします。
- 2 [設定] ページで、利用可能な [サーバー設定] または [クライアント設定] をクリックします。
- 3 [クライアント設定] を選択した場合は、適切なクライアントを選択して、[次へ] をクリックします。
- 4 [設定] ページで、[一般設定] をクリックします。

- 5 **[一般設定]** ダイアログ・ボックスで、**[トレース・ファイルを出力する]** オプションを選択解除し、**[適用]** をクリックします。
  - 6 NetVault Backup サービスを再開します。
- 詳しくは、『Quest NetVault Backup アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

## 追加情報

表2. トラブルシューティング

エラー	説明
<p><b>NetVaultプロセス・マネージャの[ログオン・アカウント]</b>は、デフォルト・アカウントから次のいずれかに変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ローカル管理者アカウント</li> <li>• SharePointが使用されている各サーバーの管理者グループのメンバーであるドメイン・ユーザー・アカウント</li> </ul> <p>その後、認証の問題が原因で、バックアップまたはリストア・ジョブは失敗します。</p>	<p><b>NetVaultプロセス・マネージャの[ログオン・アカウント]</b>に指定されたローカルまたはドメインのユーザー・アカウントは、ローカル・セキュリティ設定管理ツールに<b>[プロセス・レベル・トークンの置き換え]</b>ポリシーを持つ必要があります。この権利が付与されたら、<b>NetVaultプロセス・マネージャ</b>を再起動します。</p>
<p><b>NetVault Backup[セクション]</b>ページのアイコンが、疑問符(?)として表示されています。</p>	<p>NetVault Backup WebUIが実行されているNetVault Backup管理者ワークステーションとプラグインを実行しているサーバーの両方で、<b>NetVaultプロセス・マネージャ</b>を再起動します。問題が解決しない場合は、プラグインが実行しているサーバーの「... \NetVault Backup\gui\CachedPits」のコンテンツを、NetVault Backup WebUIを実行しているNetVault Backup 管理者ワークステーション上の同じディレクトリにコピーします。</p>
<p><b>NetVault Backup[セクション]</b>ページを参照すると、次のエラーが表示されません。「SharePointを参照できません。SharePointサービスが実行されていること、およびユーザー・アカウントに適切な権限が与えられていることを確認してください。」</p>	<p>SharePoint SQL Serverインスタンスが開始されたこと、<b>[設定]</b>ダイアログ・ボックスの<b>[Windows認証の詳細]</b>セクションで指定されたユーザー名が<b>プラグイン・システム構築</b>で定義された要件と一致していること、およびWindowsの<b>[コントロール・パネル]</b>で<b>[SharePoint管理]</b>サービスが開始されていることを確認します。サービス名の詳細については、「<a href="#">SharePoint 2010, 2013, 2016の用語</a>」を参照してください。追加情報を取得するには、NetVault Backupトレースを有効にします。詳細については「<a href="#">NetVault Backupトレースの有効化</a>」を参照してください。</p>
<p>以前の設定用フル・バックアップ・インデックスを見つけられません。</p>	<p>この問題は通常、差分バックアップを実行し、バックアップ・セクション・セットがフル・バックアップを実行するために使用されなかった場合に発生します。</p>
<p>エラー・メッセージ「ユーザー変更エラー」が表示されてリストア・ジョブが失敗します。</p>	<p><b>[設定]</b>ダイアログ・ボックスで指定された<b>[Windows管理者のユーザー名]</b>のパスワードが、最後のバックアップまたはリストア・ジョブ以降に変更された場合は、新しいパスワードで<b>[設定]</b>ダイアログ・ボックスを更新して、リストア・ジョブを再実行します。</p>
<p>リストア・ジョブが応答を停止して、「進行状況: [共有検索インデックス]が90%完了しました。」と表示されます。</p>	<p>単一サーバーへの導入のディザスタ・リカバリを実行し、リストア・ジョブを実行する前に新たにインストールされた導入でデフォルトの共有サービスが削除されていない場合、リストア・ジョブは応答を停止します。リストアを実行する前に、単一サーバーへの導入の前提条件が満たされていることを確認してください。詳細は、「<a href="#">単一サーバーへの導入のディザスタ・リカバリを同じサーバーに実行する</a>」を参照してください。</p>

表2. トラブルシューティング

エラー	説明
「ファイル"<directory\filename>"のディレクトリ検索はオペレーティング・システム・エラー3で失敗しました(指定されたパスが見つかりません)」というエラーでリストア・ジョブが失敗します。	SQL Server Express Dataディレクトリが、代替サーバーへのリストアで新しくインストールされたSharePointの導入には存在しません。エラー・メッセージで参照されているディレクトリ構造を再作成し、リストア・ジョブを再び実行します。
テンポラリ・ディレクトリからファイルが削除されません。	<b>[テンポラリ・ディレクトリから(Days - 0 = never)より以前のバックアップを削除する]</b> オプションを使用していて、プラグインがファイルを削除しない場合、お使いのシステムの日付と時刻の形式がSharePointで使用される形式と異なっている可能性があります。たとえば、お使いのシステムでは「dd/mm」形式を使用し、SharePointが「mm/dd」形式を使用している場合、指定された時間が経過しても一時ファイルは削除されません。このオプションを使用するには、同じ形式が使用されていることを確認してください。

## 弊社の社名は単なる名前ではありません

弊社は、お客様が情報技術をより有効に活用できる方法を常に探しています。そのために、IT 管理にかかる時間を節約し、ビジネスの革新に多くの時間を費やすことができるようなソフトウェア・ソリューションをコミュニティ主導で構築しています。データ・センターの近代化とクラウドの早期利用を支援し、データを活用したビジネスを成長させるために必要な専門知識、セキュリティ、アクセシビリティを提供します。Quest は、革新の一環としてお客様をグローバル・コミュニティに招き入れ、さらに顧客満足度を確保するために努力しながら、お客様の現状に実際にインパクトを与え、誇らしい遺産を残すことができるソリューションを提供し続けています。弊社は新しいソフトウェア会社へと変革することで現状に挑戦しています。弊社は、お客様のパートナーとして、お客様主体でお客様に適した情報技術を設計できるように精力的に努力しています。これは弊社の使命であり、お客様と一緒に取り組みます。新しい Quest へようこそ。お客様は、Join the Innovation™（革新的な世界への参加）に招待されました。

## 弊社のブランド、弊社のビジョン。お客様と共に。

弊社のロゴは、革新、コミュニティ、サポートという弊社の主題を表しています。この主題の重要な部分は、Q という文字で始まります。それは完全な円であり、技術的な正確さと強さへの約束を表します。Q 自体の中にある空間は、不足している構成要素（つまりお客様）がコミュニティおよび新しい Quest に加わる必要があることを象徴しています。

## Quest へのお問い合わせ

販売その他に関するご質問については、<https://www.quest.com/jp-ja/company/contact-us.aspx> を参照するか、+1-949-754-8000 までご連絡ください。

# テクニカル・サポート用リソース

テクニカル・サポートは、Quest の有効な保守契約を締結している場合、または試用版を保有している場合にご利用いただけます。Quest サポート・ポータル (<https://support.quest.com/ja-jp>) にアクセスすることができます。

サポート・ポータルには、問題を自主的にすばやく解決するために使用できるセルフヘルプ・ツールがあり、24 時間 365 日ご利用いただけます。サポート・ポータルでは次のことを実行できます。

- サービス・リクエストの送信と管理。
- ナレッジベース記事の参照。
- 製品に関するお知らせへの登録。
- ソフトウェアと技術文書のダウンロード。
- 入門ビデオの閲覧。
- コミュニティ・ディスカッションへの参加。
- サポート・エンジニアとのオンライン・チャット。
- 製品に関する支援サービスの表示。